

基本目標	風土に根ざした産業をつくる				
成果指標	町内総生産	本年度目標値	585 億円 (H29)	現状値	508.1 億円 (H27) (2018.10 公表)
成果指標		本年度目標値		現状値	

	実施内容・成果の総括	次期四半期以降への方針
第 1 四半期	<p>【政策1 成長産業としての農業の確立】については、小泉・本沼地区土地改良事業について換地計画原案を作成し、説明会を行い地権者から了承を得た。また、小泉・本沼集落営農組合を主体に土地改良を踏まえた営農実証を行い、しょうが及び人参の生産を開始した。また、里西・星の宮地区及び西明寺地区においては、土地改良事業推進協議会設立総会を開催した。</p> <p>道の駅においては、運営施設者と打合せを行い、レジ及びカード決済端末の増加、店内レイアウト変更などサービス機能向上を図った。春の陶器市(10 日間)は、売上高 47 百万円(前年対比 113.4%/日)・来場者数 92 千人(前年対比 110.9%/日)、カード決済比率は約 15%となった。ギフト販売の開始やレシピ紹介を新たに行い顧客満足度の向上に努め、6 月 15 日には 200 万人達成セレモニーを開催した。</p> <p>【政策2 スモールビジネスの推進と起業支援による産業づくり】については、起業支援補助金交付決定 1 件、融資制度申込 17 件となった。</p> <p>移住定住を促進するため(株)ましこカンパニーと連携し、担当職員 2 名を継続配置した。また、同社では商品開発事業の交付を受けてタルトの新商品開発を行い、レストランにて試験販売を開始した。更に、企画展示事業の交付決定を受けて第一回目の企画展「BOTTE&SUTTO」を開催した。昨年度から実施した道の駅いちご狩りは、シーズン中(11 月から 5 月)の来園者実績は 11,530 人となった。(昨年度実績:1,812 人)</p> <p>リーチ工房研修プログラム 2020 の応募者募集を行い、6 名の応募となった。</p> <p>就労支援に関して、パソコンセミナーと求職者セミナーを実施し、それぞれ 68 人、20 人の参加となった。</p> <p>【政策3 観光の基幹産業化】については、第1回観光戦略会議を開催するとともに、観光戦略マーケティング担当職員として1名(地域おこし協力隊員)を採用した。アフターDC 事業「益子の美術館めぐり」のチケットを 48 枚販売した。また、ましこ悠和館開館式典を高円宮妃久子殿下と承子女王殿下ご臨席のもと開催した。また、ギャラリーの入場者数は開館から 6 月末迄で 1,251 人となった。</p>	<p>【政策1】小泉・本沼地区土地改良事業については、今年度より本沼地区水田工事に着手するので、引き続き支援をする。新規就農者及び新規就農希望者、経営体、農業団体等に対する具体的な指導・フォローアップに継続して取り組んでいく。</p> <p>現在作成を進めている産地づくり基本構想の策定を受けて、畑地帯総合整備事業に係わる生産作物の導入に関して、営農検証を通じて継続性や生産性が高い品目の選定を検討していく。</p> <p>道の駅が主体となる又は道の駅を会場とする催事等に関しては、これまでの実績から催事効果を踏まえ、適宜適切に実施するよう施設管理者と調整を行っていく。</p> <p>道の駅の農業生産部門について、事業計画作成のフォローアップを行うなど、協働して事業にあたっていく。</p> <p>【政策2】企業支援補助金や融資制度については、商工会や金融機関などの関係機関と十分に連携を取りながら進めていく。また、ポイントカードシステム導入は、導入の仕組み作りとスケジュールを計画していく。</p> <p>道の駅新加工施設の機能強化に関して、マーケティングとブランディングに基づいた商品開発が行えるよう、施設運営者と調整を図りながら進めていく。また、道の駅企画展では、町が求める企画展示事業の主旨や効果に関して共有化を図っていく。「BOTTE&SUTTO」の国内外 PR と販路拡大を関係機関と協議し進めていく。また、益子焼を使おう条例を推進するため、フォトコンテストを開催する。</p> <p>リーチ工房研修プログラム 2020 の応募者について、派遣陶芸家の決定準備を進めるとともに、2019 秋招聘作家プログラムの準備を行う。</p> <p>【政策3】御座所・ギャラリーの情報発信を行い誘客に繋げる取組を行うとともに、企画展の実施についても検討していく。また、DC 事業で行ったイベント等を今後も継続していけるような態勢を検討していく。インバウンドでは、モニターツアーの実施結果を参考にし、外国人目線に沿った案内板の設置を行っていく。</p>

基本目標		風土に根ざした産業をつくる			第2四半期	
区分	成果指標・KPI	単位	前年度実績	年度目標値	現在実績値	対前年同期
成果指標	町内総生産	億円	529.7 (H28)	585 (H29)	—	—
政策 1	①新規就農者数（累計）	人	20	18	22	+2
	②担い手集積率	%	50.5	51.0	—	—
	③道の駅来場者数	万人	77.7	82.0	44.5(4-9)	+4.9
政策 2	①起業支援補助金利用件数（累計）	件	22	25	23	+1
	②空き店舗利用件数（累計）	件	6	7	6	0
	③ブランド商品認定数（累計）	件	0	16	0	0
	④益子焼総販売額	億円	29.2 (H28)	38	—	—
	⑤有効求人倍率	—	0.73	0.9	0.76(1-8)	+0.03
政策 3	①観光客入込数	万人	275.3	285	151.5(1-6)	+20.5
	②観光客宿泊者数	人	47,515	49,000	—	—
	③外国人観光客宿泊者数	人	1,157	1,200	—	—

実施内容・成果の総括	次期四半期以降への方針
<p>1 ①県と連携して新規就農希望者とのマッチングを実施した。また、樹園地継承事業等の担い手として地域おこし協力隊の採用手続きを進めた。</p> <p>②農地バンクの出し手情報を農業委員会へ提供すると共に、受け手(法人)の要望の確認を行った。また、小泉・本沼地区や里西・星の宮地区の土地改良事業を推進した。</p> <p>③季節に合わせたメニューの入替、新商品開発、生産者協議会との連携等により、消費者に魅力のある品揃えに注力した。併せて、旬夏祭などイベントを開催することで来場者数の増加に取り組んだ。</p> <p>2 ①町のお知らせ版に掲載し周知を図ると共に、商工会と連携し起業予定者の指導に取り組んだ。</p> <p>②町内を巡回して、空き店舗の現況把握に努めた。</p> <p>③観光戦略会議の下部組織であるブランディング部会において、益子ブランドイメージの検討に着手した。手仕事バンクの件数は、7件増加して15件となった。HPをリニューアルし、手仕事バンクのPRを強化した。</p> <p>④新商品開発事業「BOTE&SUTTO」のPR等に協力した。また、フォトコンテストの募集を開始すると共に、Instagramへも掲載しPRに努めた。道の駅に於いては「器がつかぐ益子の食めぐり」の企画を行い、道の駅から町内飲食店や販売店への誘導に取り組んだ。</p> <p>⑤求人情報を役場や道の駅に常時掲示すると共に、県や商工会と連携を図り求職者セミナーを11回開催し、延べ102人が参加した。また、雇用支援奨励金制度の案内を通して、事業者サイトへも雇用促進に向けた働き掛けを行った。</p> <p>3 ①②ラーニングパッケージ開催、悠和館ギャラリーPR、益子の美術館めぐり事業等の実施により、観光客の入込数と宿泊者数は順調に推移すると見込まれる。</p> <p>③多言語表記パンフレットを台北国際旅展で配布するなど外国人向けのPRに努めており、外国人観光客宿泊者数は順調に推移すると見込まれる。</p>	<p>1 ①県と連携したマッチング事業を継続実施すると共に、県農業振興事務所や農業士等と連携して新規就農者へのフォローアップ・現地指導を継続的に行っていく。また、今後着任となる地域おこし協力隊2名の計画的な育成に取り組んでいく。</p> <p>②農地バンクの出し手と受け手の情報を蓄積することでマッチングを推進し、担い手集積率の向上に取り組んでいく。</p> <p>③消費者ニーズの把握に努め、付加価値の高い商品を提供し続けていくと共に、町と連携したイベント開催等により更なる集客と町内への回遊を図っていく。</p> <p>2 ①町からの周知はもとより、商工会等の関係機関や団体及び金融機関などと連携を図り、起業支援補助金の更なる周知と活用を推進していく。</p> <p>②商工会、不動産業者、金融機関などと連携し、利用可能な空き店舗情報の集約を行い、起業業者や新規出店希望者に発信していく取組を検討する。</p> <p>③今後ブランディング部会で示されるブランドイメージに基づき、農産物、六次化商品、商工品などのブランド商品の認定を行っていく。</p> <p>④「BOTE&SUTTO」の国内外向けPRと販路拡大に協力していく。また、フォトコンテスト、英国事業、かさましこ協議会事業等を通じて益子焼の国内外への露出を高めていく。</p> <p>⑤令和2年2月の4町合同就職面接会における町内参加企業を確保することで、町内での就職を支援していく。</p> <p>3 ①②観光戦略事業推進にあたり、関係機関との協議を進め効果的な事業実施に取り組んでいく。悠和館については、ギャラリー企画展の実施を検討すると共に、宿泊事業者との協定締結と開業に向けた準備を協力して進めていく。</p> <p>③多言語表記パンフレットを活用した益子のPRを今後とも積極的に行っていく。また、外国人観光客の増加に伴い、町内案内板の多言語化について検討していく。</p>

基本目標	風土に根ざした産業をつくる	第3四半期
------	---------------	-------

区分	成果指標・KPI	単位	前年度実績	年度目標値	現在実績値	対前年同期
成果指標	町内総生産	億円	529.7 (H28)	585 (H29)	—	—
政策 1	①新規就農者数（累計）	人	20	18	27	+11
	②担い手集積率	%	50.5	51.0	—	—
	③道の駅来場者数	万人	77.7	82.0	63.4(4-12)	+5.3
政策 2	①起業支援補助金利用件数（累計）	件	22	25	23	+1
	②空き店舗利用件数（累計）	件	6	7	6	0
	③ブランド商品認定数（累計）	件	0	16	0	0
	④益子焼総販売額	億円	29.2 (H28)	38	—	—
	⑤有効求人倍率	—	0.73	0.9	0.75	+0.02
政策 3	①観光客入込数	万人	275.3	285	151.5(1-6)	+20.5
	②観光客宿泊者数	人	47,515	49,000	—	—
	③外国人観光客宿泊者数	人	1,157	1,200	—	—

実施内容・成果の総括	次期四半期以降への方針
<p>1 ①樹園地継承事業等の担い手として地域おこし協力隊2名が着任し、農業への従事がスタートした。</p> <p>②畑地帯総合整備事業では、本沼地区の土地改良整備工事に着手した。また、産地づくり基本構想においては、しょうが産地としての発展を図るため、「益子しょうが生産技術研究会」が発足した。</p> <p>③季節に合わせたメニューの入替、新商品開発、生産者協議会との連携等により、消費者に魅力のある品揃えに注力した。また、駐車場不足を解消するため、道の駅東側に新たに駐車場を整備した。</p> <p>2 ①商工会や金融機関を通じて周知を図ると共に、商工会と連携し起業予定者の指導に取組んだ。</p> <p>②町内を巡回して空き店舗の現況把握に努めると共に、商工会と空き店舗利用促進のための意見交換を行った。</p> <p>③観光戦略会議の下部組織のブランディング部会で検討している益子ブランドの構築を踏まえて、今後ブランド商品認定を行っていく方針である。手仕事バンクは3件増加して18件となった。</p> <p>④「益子焼をしようフotonテスト」の応募投稿数は725件で、SNSフォロワーは1千人を超えた。審査会を経て受賞者を決定・公表した。また、MASHIKO Product 事業として、「BOTE & SUTTO」に続く新商品開発に取組んだ。</p> <p>⑤求人情報を役場や道の駅に常時掲示すると共に、求職者セミナーを7回開催し、延べ119人が参加した。合同就職面接会の参加企業14社が決定し、HPやチラシ等でPRした。</p> <p>3 ①②陶器市・レーンガバケーション開催・悠和館ギャラリーPR・益子の美術館巡り事業等の実施により、観光客入込数と宿泊者数は順調に推移すると見込まれる。また、新たに1名に益子大使を委嘱し合計7名となり、益子大使によるPRを強化した。悠和館ギャラリー入場者は1,139人となり、目標の900人を上回る実績となった。</p> <p>③多言語表記看板設置に関する基礎データ収集を目的に、外国人モニターツアー事業を実施した。</p>	<p>1 ①地域おこし協力隊により樹園地継承事業の具体的検討を進めると共に、農業次世代人材投資事業等を活用し、引続き新規就農者の育成・確保を図っていく。</p> <p>②畑地帯総合整備事業では、営農計画の作成に継続して取組むと共に、生産作物の導入に関し、基盤整備及び営農振興の両面から取組んでいく。</p> <p>③新加工所を活用した高付加価値の商品開発や、悠和館宿泊事業との連携を十分に活かし、更なる集客と町内への回遊を図っていく。</p> <p>2 ①起業時の資金支援と併せて、起業後のフォローについても検討していく。</p> <p>②商工会との意見交換を踏まえて、空き店舗利活用に向けた関係機関との継続的な意見交換について検討していく。</p> <p>③今後、ブランディング部会で示されるブランドイメージに基づいて認定機関を組織し、農産物・六次化商品・商工品などのブランド商品の認定を行っていく。</p> <p>④フotonテスト・英国事業・かさましこ観光協議会事業等を通じて、益子焼の国内外での露出を高めていく。「BOTE & SUTTO」の国内外向けPRと販路拡大について、関係機関と協力して進めていく。</p> <p>⑤令和2年2月に開催する4町合同就職面接会に向けてPRを継続するとともに、関係機関と連携し開催準備を進めていく。</p> <p>3 ①②観光戦略事業推進にあたり、関係機関と協議を進め効果的な事業実施に取組んでいく。特に、DMOについては、関係機関と十分な検討を重ね、実効性のある組織・運営形態を検討していく。また、悠和館に係る残りの土地の寄付受入を速やかに進めると共に、宿泊事業については開業に向けて事業者と緊密に連携し着実に取組んでいく。</p> <p>③外国人モニターツアーの実施結果を参考に、外国人観光客の目線に立った案内板設置を検討していく。</p>

基本目標	風土に根ざした産業をつくる	本年度総括 (第4四半期含)
------	---------------	-------------------

区分	成果指標・KPI	単位	前年度実績	年度目標値	現在実績値	対前年同期
成果指標	町内総生産	億円	529.7(H28)	585(H29)	538.3	+8.6
政策1	①新規就農者数（累計）	人	20	18	28	+8
	②担い手集積率	%	50.5	51.0	52.3	+1.8
	③道の駅来場者数	万人	77.7	82.0	84.0	+6.3
政策2	①起業支援補助金利用件数（累計）	件	22	25	24	+2
	②空き店舗利用件数（累計）	件	6	7	7	+1
	③ブランド商品認定数（累計）	件	0	16	0	0
	④益子焼総販売額	億円	29.2(H28)	38	23.0(R1)	△6.2
	⑤有効求人倍率	—	0.73	0.9	0.77	+0.04
政策3	①観光客入込数	万人	275.3	285	290.9	+15.6
	②観光客宿泊者数	人	47,515	49,000	47,550	+35
	③外国人観光客宿泊者数	人	1,157	1,200	1,363	+206

実施内容・成果の総括	次年度への方針
<p>1 ①今年度の新規就農者数は、農業人フェアへの出展や新規就農希望者に対する就農相談に取組んだ結果、8人増加して28人となり目標を上回った。 ②農地の出し手と受け手のマッチングを継続的に実施すると共に、小泉本沼地区の土地改良等の事業に伴い集積が進んだ結果、今年度の担い手集積率は52.3%となり目標を上回った。 ③季節に合わせたメニューの入替、新商品開発、生産者協議会との連携等により、消費者に魅力ある品揃えに注力した結果、前年度対比で来場者数は6.3万人増の108%となり目標を上回った。売上高も110%程度になる見込みである。</p> <p>2 ①商工会や金融機関と連携して周知を図り利用促進に取組んだ。今年度の利用件数は2件(宿泊業及び美容業)となったが、目標対比では1件の未達となった。 ②商工会等の特定創業支援事業と連携して取組んだ。今年度の利用は1件で目標通りの結果。 ③観光戦略会議のブランディング部会において、イメージビジュアルとキャッチコピーが決定した。 ④道の駅でのフォトコンテスト初展示、益子焼を使おう条例PRポスター等の北関東道の駅での掲示、益子大使と宣伝部長によるPR等に取り組んだが、未達となった。 ⑤求職者向けセミナーや4町合同就職説明会の開催等を通じて有効求人倍率の増加に取り組んだ。令和1年の実績は前年対比+0.04の0.77となった。</p> <p>3 ①②陶器市・レーンガバーケーション・悠和館開業・道の駅の着地型観光などの事業実施により、観光客入込数、観光客宿泊者数共に前年度を上回ったものの、観光客宿泊者数については昨年10月の台風等の悪天候の影響により目標は未達となった。 ③外国人モニターツアーの調査分析の結果を踏まえて、益子地区で多言語表記案内板・説明板15箇所を設置が完了した。</p>	<p>1 ①新規就農者の確保を図るため、引続き就農相談などの支援を行っていくと共に、集落営農組織や農業生産法人化に係る支援を継続していく。 ②担い手への集積に関しては、受け手と出し手のマッチングを継続し、引続き未集積地の集約化に取り組むと共に、担い手確保と併せた一体的な取組を進めていく。 ③新型コロナウイルス感染拡大防止のための外出自粛要請により、来場者数や店頭売上高の減少が想定されるが、衛生管理を徹底しつつ、新加工施設稼働に伴う新商品開発・貨客混載事業・カワグ販売等を強化することでカバーしていく。</p> <p>2 ①補助金に関する問合せに丁寧に対応し、起業時の資金支援、商工会と連携した起業前のフォロー並びに起業後のフォロー等をきめ細かく行うことで持続可能な起業を支援していく。 ②起業相談時に空き店舗活用に係る補助金制度を周知し、利用促進を図っていく。 ③イメージビジュアルとキャッチコピーの決定を受けて、ブランド認証制度を構築し、商品認定を行っていく。 ④新商品「Bote&Sutto」の国内外向けPRと販路拡大及び次の新商品開発に引続き取り組んでいく。また、作陶家の経営力向上に資するセミナー等の企画を検討していく。 ⑤有効求人倍率1.0を達成するために、従来の施策と併せて、産業団地の開発を検討し、企業誘致に向けて積極的に取り組んでいく。</p> <p>3 ①②観光戦略事業推進にあたり、DMOの設立に向けて関係機関と協議を進め、効果的な事業実施に向けて取り組んでいく。悠和館事業は、宿泊施設の安定運営と御座所・ギャラリーの情報発信を推進し、誘客に繋がるよう取り組んでいく。 ③日本遺産等の活用による外国人誘客に繋がる情報共有に努め、連携できる事業へ積極的に参画し、外国人観光客宿泊数の増加に取り組んでいく。</p>

		課局名	農政課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	成長産業としての農業の確立		
施策	農業生産体制の整備	進捗状況	100%		
KPI	新規就農者数 (H26年度からの累計)	本年度目標値	18人	現状値	28人
KPI	担い手集積率	本年度目標値	51.0%	現状値	52.3%
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画 (スケジュール・工程)	②実施内容・実績・成果		
主な取組内容	4月	①農地バンクの出し手と受け手との連絡調整をする。 ①②新規就農希望者の把握及び既就農者に対するフォローアップを随時行なう。 ①③認定農業者や集落営農組織、農業生産法人等に対して、農地利用や集積面積の拡大、営農計画等の指導・支援を行なう。 ④畑地帯総合整備事業を推進し、農業の担い手に対する施設園芸作物、土地利用型園芸作物の作付けを推進する。 里西・星の宮地区及び西明寺地区土地改良事業推進協議会設立総会を開催する。	①～④益子町景観づくり協議会の事業計画を策定、事業に着手した。 小泉本沼集落組合が実証事業として行なう人参加付に関する調整を行うとともに営農計画をまとめ、産地づくりモデル地域育成事業「産地づくり基本構想」の作成に着手。 町再生協議会幹事会、認定農業者総会、農生研・4日等、関係機関団体の会議を開催した。 ④4/12小泉畑総地委員会		
	5月		①～④農業次世代人材投資事業に係る新規就農者の現地確認及び指導を行なった。 経営所得安定対策事業に伴う麦作の作付確認を実施。 ④産地づくり基本構想の策定に着手した。 ④5/21里西・星の宮地区畑総モデル事業打合せ ④5/26里西・星の宮地区土地改良事業推進協議会設立総会		
	6月		①～④小泉・本沼集落営農組合を主体に畑地帯総合整備事業を踏まえた営農実証を行い、しょうが及び人参の生産を開始。第1回目となる現地検討会開催。 産地づくり基本構想においては、関係者(星宮、ジーン、小泉本沼)による検討会を開催。結果を踏まえて構想に内容を反映。 県農業者の認定に向けた調整を開始した。 ④6/2西明寺地区土地改良事業推進協議会設立総会 ④6/5小泉・本沼地区換地委員会 ④6/17本沼地区換地原案発表会 ④6/19小泉地区換地原案発表会 ④6/25里西地区営農ビジョン説明会		
	7月	①農地バンクの出し手、受け手のリストを農業委員及び農地利用最適化推進委員へ情報提供する。農地バンクの出し手と受け手との連絡調整をする。 ①②新規就農希望者の把握及び既就農者に対するフォローアップを継続して実施する。 ①③認定農業者や集落営農組織、農業生産法人等に対する支援を継続して実施する。 ④畑地帯総合整備事業を推進し、農業の担い手に対する作付推進等を継続して実施する。	①②樹園地継承事業に向けて、果樹産地協議会において先進事例の調査研究を行った。 ①～④人・農地プランの実質化について国から方針が示されたもののまだ不透明で具体的に欠く内容であるので、今後も幅広く情報収集を行う。④7/8本沼地区工事会議 ④7/9小泉畑総入山池地区編入町道打合せ(建設課) ④7/10里西・星の宮畑総モデル事業推進会議 ④7/12畑地かんがい用水散布実演会(星の宮園場) ④7/22農業委員へ農地バンクの出し手の情報提供 ④7/23小泉・本沼畑総地区委員会		
	8月		①8/26農地バンク出し手との連絡調整 ①～④樹園地継承事業及び道の駅農業生産部門における人材確保に向けて地域おこし協力隊制度の導入検討に着手し、募集を開始した。 ④8/29八幡池工事打合せ		
	9月		①9/30農地バンクの受け手(法人)との要望確認 ①②農業次世代人材投資事業に係る中間評価及び現地指導を行った。農業の担い手を確保するため、地域おこし協力隊を募集し、採用の手続きを進めた。 ④9/26小泉・本沼地区委員会(入山地区編入の件)		
	10月	①農地バンクの出し手と受け手との連絡調整をする。 ①②新規就農希望者の把握及び既就農者に対するフォローアップを継続して実施する。 ①③認定農業者や集落営農組織、農業生産法人等に対する支援を継続して実施する。 ④畑地帯総合整備事業を推進し、農業の担い手に対する作付推進等を継続して実施する。	①～④10/8産地づくり基本構想(しょうが、にんじん)意見交換会の開催 ④10/10小泉・本沼土地評価部会 ④10/16小泉・本沼土地改良事業起工式 ④10/17小泉・本沼地区換地計画ヒアリング ①～④10/28産地づくり基本構想(しょうが、にんじん)県と打合せ		
	11月		①②④11/1地域おこし協力隊2名が着任し、農業生産部門・樹園地継承事業に従事 ③④11/18小泉・本沼地区委員会 換地計画変更、小泉本沼集落営農組合(畑地帯整備)に係る営農及び法人化に関する打合せ実施 ①～④11/27農業次世代人材投資事業現地調査(2名)		
	12月		④12/3里西・星の宮地区土地改良事業推進協議会 ④12/9小泉・本沼地区土地改良事業工事説明会 ①～④樹園地継承モデル事業について、廃作予定者(ぶどう園地)との打合せを行い、園地継承に向けて調整を行った。 ①～④産地づくり事業においては、しょうが生産者による組織化を図り、にんじんにおいては作付規模拡大に向けた大型機械導入デモ(12/19)を行なった。		
	1月	①農地バンクの出し手と受け手との連絡調整をする。 ①②新規就農希望者の把握及び既就農者に対するフォローアップを継続して実施する。 ①③認定農業者や集落営農組織、農業生産法人等に対する支援を継続して実施する。 ④畑地帯総合整備事業を推進し、農業の担い手に対する作付推進等を継続して実施する。	④産地づくり基本構想に基づき、しょうが生産技術研究会を発足。具体的な営農に着手した。 ①～④果樹生産農家の現状を把握するため、個別訪問調査を実施。 ④1/10 小泉畑総入山池地区境界確認 ④1/22 本沼地区境界確認 1/27小泉本沼地区委員会 今後の工事や文化財調査に関するスケジュールを説明した。		
	2月		①新規就農希望者1名の就農相談を実施。また、新規就農者の確保に向けて農業人フェアに出席。 ④しょうが生産における営農検討及び品質向上に向けた勉強会を開催。 ①～④道の駅の生産部門では来期の作付けに向けて特定品種を選定し、営農に着手した。また、町内生産者に対し、振興品種の講習、苗種の斡旋を行なうなど生産振興を図った。 ①農地の出し手と受け手のマッチング実施(本沼果樹園地約7ha)。		
	3月		①～④新規就農希望者の相談を受けたほか、畑地帯総合整備事業に係る営農計画について地域と調整を行った。 また、小泉本沼集落営農組合の法人化に向けた意見交換を行うなど事業の推進化を図った。 ①農地の出し手と受け手のマッチングを実施(芦沼地内、田約8ha)。		

	<p>③担当課の点検・検証</p> <p>②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点</p>
<p>第1四半期</p>	<p>①～④新規就農者及び新規就農希望者に対しては継続的な支援・指導が必要である。 各種団体等への指導支援を行なうほか、農業経営者における情報交換や研修等を計画的に実施することができた。 また、畑地帯総合整備事業や露地野菜等の生産振興に関しては、産地づくり基本構想の作成に着手。今後3年間のより具体的な営農ビジョンにより事業を実施していく必要がある。</p>	<p>①～④新規就農者及び新規就農希望者、経営体、農業団体等に対する具体的な指導、フォローアップを今後も継続的に行なっていく。 産地づくり基本構想の策定を受け、畑地帯総合整備事業に係る生産作物の導入に関しては営農検証を行なうなどし、継続性や生産性が高い品目の選定を検討する。</p>
<p>第2四半期</p>	<p>①～④新規就農者の確保に向けた説明会及び現地見学会を県主導で行なっているが、十分な効果は得られていない。就農者希望者とのより念密なマッチングが求められる。 また、補助事業を活用している就農者に関しては計画目標値の達成について個別に支援・指導が必要であると考えられる。 畑地帯総合整備事業に関しては、営農計画の進捗が滞っていることから、農政サイドから積極的なアプローチをしていく必要がある。また、農業用水確保のため、入山地区を小泉・本沼地区事業区域内へ編入する必要がある。</p>	<p>①～④新規就農希望者や新規就農者等に対し、より具体的な指導・フォローアップを今後も継続的に行なっていく。 地域おこし協力隊員の着任が決定し、樹園地継承事業や道の駅の農業生産部門の人材を確保できた。人材活用の方向性等について、今後担当者と綿密な調整を行っていく。 畑地帯総合整備事業に係る生産作物の導入に関し、整備・振興の側面からアプローチする。入山地区に関しては、今後農振農用地区域に指定し、地区界測量を進めていく。</p>
<p>第3四半期</p>	<p>①～④新規就農者の確保に向けた取り組みに関しては、地域おこし協力隊制度を活用し、農業従事希望者2名を採用。また、樹園地継承に向けた圃場確保・調整を行うなど、順調に事業を遂行することができた。 畑地帯総合整備事業に関しては、本沼地区の整備工事に着手することができたが、営農計画の進捗が遅れているため、引き続き積極的なアプローチが必要である。</p>	<p>①～④新規就農者に関しては今後も引き続きフォローアップを図るとともに、就農希望者の確保を進めていく。また、地域おこし協力隊員制度を活用し、樹園地継承事業の従事者を確保することから、効果的かつ効率的な人材確保に努めていく。 畑地帯総合整備事業に係る生産作物の導入に関し、整備・振興の側面からアプローチしていく。</p>
<p>第4四半期</p>	<p>①～④本年度の新規就農者は8名で累計28名となり、目標値を大きく上回ることができた。また、担い手集積率についても、52.3%となり目標値を達成した。 一方、小泉本沼地区に関しては、しょうがやにんじんの生産といった個別営農の進捗はあったものの、組織化に向けた検討や地域営農計画の合意には至らず、次年度以降の課題となった。</p>	<p>①～④新規就農者に関しては引き続き人材の確保に向けて支援を行っていく。 また、集落営農組織や農業生産法人についても支援を継続して実施。 担い手への集積に関しては一定程度の集積が進み、今後は未集積地の集約化が課題となる。担い手確保と農地集積は一体的な取り組みが求められる。 畑地帯総合整備事業に関しては、本沼の畑地帯整備工事に向け、耕作者との作付調整を進めていく。</p>

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	年間計画に沿った事業運営を継続していく。
	第2四半期	②意見・提言 目標を達成しており順調であるため、このまま継続されたい。	
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	今後も未集積地への集約化を進めるとともに担い手確保に努める。また地域おこし協力隊員制度を活用し、新規就農者を確保していく。
	総括（第4四半期も含む）	②意見・提言 真意就農者数は目標値を達成しており、引き続き継続いただきたい。	

		課局名	農政課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	成長産業としての農業の確立		
施策	地域農産物の販路開拓	進捗状況	100%		
KPI	道の駅来場者数	本年度目標値	82万人	現状値	84.0万人
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月			①～⑦施設運営者である(株)ましこカンパニーと指定管理者制度に基づく管理運営協定を締結した。 道の駅の事業体制について施設運営者と打合せを行い、レジ増設、カード決済の導入、店内レイアウトを変更するなどサービスの充実と機能向上を図った。	
	5月	①～⑦道の駅の施設運営者と業務仕様及び協定書に基づき管理運営協定を締結し、町は施設運営者が道の駅で行う事業を支援する。 農業に関する生産の振興と販路開拓及び商品確保に向けた事業検討を行なう。		①～⑦春の陶器市が10日間開催され、売上高（46,695千円・対年比113.4%/日）・来場者数（9.2万人・対年比110.9%/日）になるなど、前年を大きく上回った。 カード決済を導入した結果については、売上全体の約15%を占めるなど一定の効果があつたものと推測する。なお、主力商品となるいちご不足が見られた。これは以前より想定できるものであり、早急な改善策を講じる必要がある。	
	6月			①～⑦ギフト販売を開始、売場においてはおすすめレシピや調味料の紹介を行なうなど顧客満足度の向上につなげた。 出荷者に対する衛生管理及び農業講習会等を開催した。 催事に関しては、9日カフェイベント、15日200万人セレモニー、15～28日サラダウィークを開催。	
	7月			①～⑦農産物及び一般商品の売上実績（第1四半期）は178,793千円であり、前年比151%台を推移。売場では業務改善を進めるとともに生産・販売強化品目を設定し、施設機能の充実を図った。やきものライナーによる貨客混載事業は順調なものの、品薄な品目もあることから生産管理を徹底するなどし、商品の確保に努める。	
	8月	①～⑦施設運営者が道の駅で行う事業を継続して支援する。 農業生産振興に係る事業化に向けた支援を継続する。		①～⑦道の駅農業生産部門において、生産実証に向けた検討を開始。また、各部門にける課題・懸案事項を整理するなどした。 消費税法の改正に伴い、売り場の混乱を避けるため在庫・棚上の整理、増税に向けた対応を行なった。	
	9月			①～⑦新たな販路・流通手段として貨客混載事業の強化を行うなど積極的な事業展開を図ることができた。 来月以降、催事シーズンに入ることから、各生産者と生産調整に関する打合せ等を実施。 税改正に伴うPOS・バーコードの入れ替えを行なうなど適切な売場対応を行なうことができた。	
	10月			①～⑦道の駅の取り組みに関する視察対応（3件） 県外催事出店（神奈川県）及び貨客混載事業に関する事業打合せ等を実施。また、道の駅東側駐車場の整備を行った。	
	11月	①～⑦施設運営者が道の駅で行う事業を継続して支援する。 農業生産振興に係る事業化に向けた支援を継続する。 道の駅の駐車場の整備に着手する。		①～⑦秋の陶器市は来場者数3.4万人（レジ数1.1万人/5日間）の実績となった。 貨客混載事業による全国バスあいのり協議会を発足 道の駅での販売品目拡大に向けた実証事業（生産部門）として農業用ハウスを設置、試験栽培に着手した。	
	12月			①～⑦町内の生産品目拡大に向けた実証事業（生産部門）として圃場でのブロッコリー、ほうれんそうの栽培に着手。 町外での販路拡大を図るため販促及びPR活動（都内3箇所）を行い、対前年を上回る販売実績を記録することができた。 また、貨客混載事業によるバス輸送も順調に推移、今後いちごなどの特産物の流通拡大が期待できる。	
	1月			①～⑦道の駅生産部門でのブロッコリー生産が終了。 次期作物の生産調整に入った。 貨客混載事業においては新たな付加価値を構築するため、事業者との打合せを行い、上下便輸送を行なう調整を行った。	
	2月	①～⑦施設運営者が道の駅で行う事業を継続して支援する。 農業生産振興に係る事業化に向けた支援を継続する。 道の駅の駐車場整備を完成させる。		①～⑦販売部門での類似クレーム件数が増加、具体的な解決策がとられていない。早急な対応を講じるよう管理者に対し指示を行った。	
	3月			①～⑦新型コロナウイルス感染症により来場者数、売上高ともに影響を受け始めている。安全・衛生管理の徹底と不測の事態に備える等危機管理に努めるよう指示した。	

	<p>③担当課の点検・検証</p> <p>②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点</p>
<p>第1四半期</p>	<p>①～⑦ 供用3年目を迎え、業務体制やオペレーションの再検討・変更を行なうなど、現状に即した対応が適切に行なわれた。 今後、近隣・近江市町において類似施設のオープンも控えており、営業強化を図る必要がある。 催事計画については、開催時期や時間、場所、内容等を十分に検討するなどし、実施する必要がある。 道の駅の生産部門に関しては、事業計画を作成するなどし、具体的な事業に着手していくことが求められる。</p>	<p>①～⑦ 道の駅が主体又は会場とする催事等に関しては、これまでの実績から催事効果を踏まえ、適宜適正に実施するよう施設管理者と調整を行う。 道の駅の生産部門について、事業計画作成のフォローアップを行うなど、協働して事業にあたっていく。 今後の増税対策及び食品表示法改正、有料レジ袋化に向けた対策・対応を進める。</p>
<p>第2四半期</p>	<p>①～⑦ 近隣地に類似施設がオープンし売上減少等が懸念されたが、現在までの売上実績は対年比115%（単月113%）を維持するなど、大きな影響は受けていない。 道の駅の管理運営者である（株）ましこカンパニーが、農業生産部門、新加工施設の運営のほか、新たに宿泊部門や加工（ジュース）部門に着手するなど、事業領域が多岐に渡ることから、各部門の部門管理を徹底して行っていくことが求められる。</p>	<p>①～⑦ 道の駅が行なうべき業務の洗い出しを行い、施設の管理運営者に対し、中長期的な事業計画を作成するよう求めていく。 加工部門に関しては農業生産振興との連携、また、新たに請け負うジュース製造部門においてのスムーズな事業継承を指示した。 農業生産部門では生産性を高めることに留まらず、価値の向上に向けた取り組みを進めるよう調整を図っていく。</p>
<p>第3四半期</p>	<p>①～⑦ 12月末までの売上実績は対前年比111%（3期比較107%）となっており、いずれも前年実績を上回ることができた。 今後は中長期計画に基づく各部門別の売上・収支想定を行なうとともに、新たに設置された農業生産・ジュース加工・宿泊部門の事業性を確保していく必要がある。 業務の遂行に関しては、情報伝達不足や単純なミスによるエラーを未然に防ぐための改善が求められる。また、クレーム等の対応に関しては、品質改善策を講じる必要がある。</p>	<p>①～⑦ 各部門の事業経営強化を図るための指導を行なっていく。 単純的なミスを未然に防ぐため、情報や業務の連絡調整を徹底する。 クレームに関しては原因の究明と今後の対応、品質管理体制の強化を図る。</p>
<p>第4四半期</p>	<p>①～⑦ 指定管理者が、業務仕様に基づき適正に業務を行なっている。 来場数及び売上高は順調に推移。対年比でも来場数約108%、売上高約111%になるなど年間実績に関しても前年を上回る結果となった。 販路開拓に関しては、店頭販売以外の取り組みとして外販催事や貨客混載事業、カタログ販売等が展開されており、おおむね順調に推移していると想定される。</p>	<p>①～⑦ 事業計画に基づいた次年度の経営方針が示され、新たな取り組みとして新加工施設も稼働することから、新商品の開発、地産地消の推進、関係機関と連携した新たな販路の開拓に努めていく。</p>

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1 四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	道の駅を核として地域農産物の販促及び開発を行なうとともに、年間計画に沿った事業運営を継続していく。
	第2 四半期	②意見・提言 町内・町外での販促活動により、道の駅来場者数は増加している。また、チラシやSNSを使った宣伝も奏功しており、総じて順調であるためこのまま継続されたい。 今後も、地域農産物の販促、地元農産物を利用した新商品開発を継続願いたい。	
総括 （下半期も含む）	第3 四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	今後も顧客満足度を高めるとともに、新たな販路を開拓し売り上げの増加を図りたい。
	総括 （第4 四半期も含む）	②意見・提言 来場者数の目標値を達成しており、引き続き継続いただきたい。新加工施設の稼働による生産能力・付加価値向上により、販路開拓を期待する。	

		課局名	観光商工課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	スモールビジネスの推進と起業支援による産業づくり		
施策	商店の活性化と起業支援の充実	進捗状況	100%		
KPI	起業支援補助金利用件数 (H26からの累計)	本年度目標値	25件	現状値	24件
KPI	空き店舗利用件数 (H26からの累計)	本年度目標値	7件	現状値	7件
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画 (スケジュール・工程)		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月	①起業支援補助金制度の周知 ②商工会へ起業家への指導依頼、後継者育成セミナー内容検討、融資制度の周知 ③ポイントカード実施に関する検討〔観光戦略会議で検討し実施する〕 ④空き店舗の状況について、関係課との情報共有 ④求人情報・起業支援情報の収集・発信	①お知らせ版4月下旬に募集記事を掲載し周知を図る (問合件数2件) ①起業支援補助金交付決定 (事業所賃借料補助金継続申請 1件) ②商工会へ町との共同でのセミナー開催について相談 (英会話等) ②融資申込件数6件 ④月3回道の駅や役場ホール等に求人情報紙を設置		
	5月		①補助金問合せ (1件) ②融資申込3件 ③第1回観光戦略会議5/13。委員出席5/7人。 ④月2回道の駅や役場ホール等に求人情報紙を設置		
	6月		①起業支援補助金審査会 (6/18, 1件交付決定) 補助金問合せ (1件) ②融資申込件数8件 ③ポイントカードの状況について商工会、やまゆりカード会に情報共有 (6/21) ④月3回道の駅や役場ホール等に求人情報紙を設置		
	7月		①補助金問合せ (1件) ②商工会へ起業予定者への指導を依頼②融資申込件数3件 ③ポイントカード打合せ (7/2, 9, 17, 24, 31) ④月3回道の駅や役場ホール等に求人情報紙を設置		
	8月		②融資申込件数8件 ③ポイントカード打合せ (8/7, 14, 21, 27) ④月3回道の駅や役場ホール等に求人情報紙を設置		
	9月		①起業支援補助金についてお知らせ版に掲載 (9月下旬) ②融資申込件数7件 ③ポイントカード打合せ (9/3, 11, 18, 25) ④月3回道の駅や役場ホール等に求人情報紙を設置		
	10月		①補助金問合せ (1件) ②融資申込件数2件 ③職員向け地域ポイント説明会 (10/8, 9) ③ポイントカード打合せ (10/2, 16) ④月3回道の駅や役場ホール等に求人情報紙を設置		
	11月		①補助金問合せ (1件) ②融資申込件数6件 ③ポイントカード打合せ (11/13, 19, 20) ④月3回道の駅や役場ホール等に求人情報紙を設置		
	12月		②融資申込件数2件 ②中小企業振興資金利子補給制度について商工会、金融機関との打合せを実施 (12/9) ③ポイントカード打合せ (12/6, 13, 18) ③ポイントカード協議会事務局体制確立に向けて理事を依頼中 ④月3回道の駅や役場ホール等に求人情報紙を設置		
	1月		①補助金問合せ (1件)、起業支援補助金申請有、審査会を実施した。 ②融資申込件数4件 ②商工会へ起業家の指導依頼 ③ポイントカード打合せ (1/15, 22) ④月1回道の駅や役場ホール等に求人情報紙を設置		
	2月		①補助金問合せ (2件)、起業支援補助金申請有 ②融資申込件数5件 ③ポイントカード打合せ (2/5), ポイント協議会総会 (2/27) ④月3回道の駅や役場ホール等に求人情報紙を設置		
	3月		①補助金問合せ (2件)、起業支援補助金額の確定2件 ②中小企業振興資金限度額を1,500万までに拡充し、運転資金にも6カ月の据置期間を設けた。②融資申込件数1件 ③ポイントカード4月始まりの店舗を回り、機械の導入と取扱い説明を実施 ④月3回道の駅や役場ホール等に求人情報紙を設置		

	<p>③担当課の点検・検証 (②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。)</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点</p>
<p>第1四半期</p>	<p>③ポイントカードシステムの導入について、関係団体へ事業説明を行い、今後の進め方について意見交換をすることができた。今後は、導入の仕組みづくりとスケジュールについて計画していく。</p>	<p>③事業推進については、商工会等の関係機関や団体とは十分な協議を重ね、連携を取りながら進める必要がある。</p>
<p>第2四半期</p>	<p>③ポイントカードの地域ポイント実施に向けて検討することができた。 ④求人情報紙が届いたら速やかにHPに掲載し、道の駅や町関係施設等にも設置依頼をしている。</p>	<p>③職員向け地域ポイントの説明会を実施し、次年度に向けて協力依頼をする。 ④引き続き迅速な事務処理を心がけ就職情報提供につながるよう努める。</p>
<p>第3四半期</p>	<p>②中小企業振興資金利子補給制度について商工会や金融機関と打合せ会を持つことができ、来年度からの補助率について決定することができた。 ③ポイントカードについては、ポイントカード協議会設立に向けて役員候補者に個別に依頼中。</p>	<p>②利子補給制度補助率の変更に向けて要綱改正等の準備をしスムーズな移行に努める。 ③当初予算内示後に各課へ地域通貨から地域ポイントに移行できるかどうかヒアリングを実施し地域ポイント移行額の把握するとともに、Ipard操作等のレクチャー会を開催しスムーズなスタートができるよう努める。 ③地域ポイント協議会の理事会、総会を開催し本稼動への準備を進める。</p>
<p>第4四半期</p>	<p>①今年度起業支援補助金の申請のあった2名に対し補助金の額の確定をし、支払うことができた。(宿泊業・美容業)1名は空き店舗活用も有。 ②中小企業振興資金融資制度の上限額の拡充と、据置期間を設けることができた。 ③ポイントカード協議会総会を実施することができた。また、道の駅で3/16日よりプレオープンをすることができた。</p>	<p>①起業支援補助金への問い合わせがきているので、補助金申請に向けてフォローを続けていく必要がある。 ②制度拡充のPRを図る必要がある。 ③4月スタートがスムーズに切れるように、個店への訪問支援やPR活動に努める。</p>

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	ポイントカードが本稼動することにより町内循環型経済の基盤となるように努めていきたい。またiPadを導入することによりキャッシュレス対応のアプリをインストールすることもできることをPRしていきたい。 空き店舗の把握については、関係課及び商工会などから情報収集に努めていきたい。
	第2四半期	②意見・提言 ポイントカードの実施による町内商店の活性化に期待したい。併せて、キャッシュレス化の強化にも期待したい。 空き店舗の数の把握が必要と思われる。	
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	引き続き商店等の活性化のため、ポイントカード事業の推進に努める。また、起業支援の補助金制度の周知支援に努めていきたい。
	総括（第4四半期も含む）	②意見・提言 アフターコロナ、ウィズコロナを見据えた取り組みが非常に重要と考える。地の利を生かした誘致活動も期待している。	

		課局名	農政課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	スモールビジネスの推進と起業支援による産業づくり		
施策	ものづくりの育成・支援	進捗状況	100%		
KPI	ブランド商品認定数（累計）	本年度目標値	16件	現状値	0件
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月	①商品開発事業の実施主体が地域農産物を活用した商品の開発に着手する。 食品分野における認証制度の運用を検討する。 新加工施設の施設整備に向けた事前準備を行ない、早期着手に向けて関係者等と調整を行う。	①商品開発事業について、受託者である（株）ましこカンパニーに対し、交付決定を行なった。 道の駅加工施設の第四期運用を開始、新商品開発事業に着手した。 ①新加工施設の与条件を整理し、整備に向けて施設本体及び厨房設備に関する打合せ等を行った。 加工施設の整備にあたり、地方創生整備交付金の導入に向けて地域再生整備計画の策定に着手。 加工施設の財源獲得に向けて県所管部局と協議を行なった。		
	5月		①新加工施設整備に向けて、地域再生計画及び事業整備計画を作成し、国及び県事業による財源を確保する。 また、運営者においては、新設に向けた準備チームを設置し、新商品の検討・開発に向けた体制づくりを進めた。 ①道の駅のいちご狩りについて、シーズン中11,530人の来園実績となった。		
	6月		①新加工施設の整備に向けて、新商品2点（タルト）を試作し、レストラン等において試験販売を実施。 ①厨房機器の導入に向けた機器の視察、茂木町須藤加工所の視察を実施した。今後は、商品開発と共にスタッフ研修等に着手していく。		
	7月	①食品分野における認証制度の運用を検討する。 新商品開発の安定的な開発・生産・供給・販売に向けた支援を行なう。 新加工施設の施設整備に向けて、補助事業を導入し、財源を確保するとともに計画設計（実施設計）に着手する。	①新加工施設の整備に向けた施設設計に着手。現在、配置や導入機器の検討を行なっている。催事等により宣伝購買効果は発生しているものの、顧客に対してコンセプトが明確に伝わらない場面もあることから、スタッフ内で検証し、次期催事に向けて改善を行なっていく。		
	8月		①新加工施設の整備に向けた機能及びレイアウトを整理。また、製造部門の費用対効果等の確認を実施。事業財源については地方創生事業の承認を得、交付申請の手続きに着手した。		
	9月		①新加工施設の整備に向けた設計業務が完了し、施設の建設工事の発注に向けた準備を開始。既存広場を利用している関係者との調整も終え、施設整備に着手する。		
	10月	①食品分野における認証制度の運用を検討する。 新商品開発の安定的な開発・生産・供給・販売に向けた支援を継続して行なう。 条件が整い次第、新加工施設の施設整備に着手する。	①新加工施設の整備に向けた建築工事（本体建築）の発注を行なった。 また、加工部門に新たに開設予定のジュース製造ラインの調整を行った。		
	11月		①新加工施設の整備に向けた発注（本体建築）が完了し、請負業者との着工前打合せを実施。また、加工部門にジュース製造ラインが開設され、11月から運転を開始した。		
	12月		①新加工施設の整備に着手し、建築工事及び厨房設備の導入に向けた打合せを行った。 農業生活研究グループの万能タレについて、道の駅加工部門との連携による商品化に着手した。		
	1月	①食品分野における認証制度の運用を開始する。 新商品開発の安定的な開発・生産・供給・販売に向けた支援を継続して行なう。 新加工施設の施設整備を行なう。	①新加工施設（厨房設備）の整備に着手した。 農生研の万能タレについて、生産技術の向上と安定供給に向けた講習会を開催した。 本年度事業について精査を行い、これまでの実績を整理した。		
	2月		①新加工施設の整備については、本体建築工事が進行している。道の駅加工部門での新商品開発事業について、本年度実績の整理を行なう。		
	3月		①商品開発事業に関しては事業の実施から4年が経過。開発数に伸び悩みがみられる。認証制度については、観光戦略会議において統一ブランドイメージを検討中である。		

	<p>③担当課の点検・検証</p> <p>②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点</p>
<p>第1四半期</p>	<p>①加工施設の運営管理は指定管理者が適正に行なっている。 新加工施設に関しては、施設の整備に向けた事業計画及び財源確保の調整を行い、実施に向けた施設設計に着手することができた。</p>	<p>①新加工施設の機能強化に関しては、顧客ニーズを踏まえ、かつマーケティング・ブランディングに基づいた商品づくりが行なえるよう、施設運営者と調整を図り、整備を進めていく必要がある。</p>
<p>第2四半期</p>	<p>①既存の加工施設運営に関しては指定管理者が適正に行なっている。 新加工施設は建築工事に向けた準備に着手。年度末完成（本体工事）を見込む。 新加工施設に以降した後の既存施設の利活用について検討を行なう必要がある。</p>	<p>①既存の加工施設の運営に関しては、住民利用などのニーズを踏まえながら、現在施設管理を行う運営者とも調整の上、協議を進めていく。 また、新加工施設の管理運営については最適な事業進行が図れるよう、先進事例等を調査研究し、運営方針を決定していくことが求められる。</p>
<p>第3四半期</p>	<p>①既存の加工施設運営に関しては指定管理者が適正に行なっている。 新加工施設は建築工事に着手。年度末完成（本体工事）を見込む。</p>	<p>①加工施設の管理運営体制に関しては、新旧施設の方針を施設利用者に対して早期にアナウンスする。</p>
<p>第4四半期</p>	<p>①加工施設の運営管理は指定管理者が適正に行なっている。 新加工施設の稼働に向けた整備を進めており、スムーズな運営移行に向けて準備を進めていく。 新商品開発事業に関しては一定の成果はあったものの、商品群種も頭打ちとなっており、次年度以降の実施内容について課題が残る。</p>	<p>①新加工施設の開設に関しては、人員の配置を含め組織体制を強化し、円滑な事業進行を図る必要がある。 新商品開発事業については、その内容、効果はもちろん目的に沿った事業が実施されるよう検証していく必要がある。 ものづくりの育成に関しては、商工部局主導による事業の実施が望ましいことから次期総合計画では所管部局並びに実施方法について検討を要する。</p>

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・3委員 改善・見直し・・・1委員 廃止・終了・・・なし	新加工施設の整備に関しては現時点では順調に進んでいるが、供用に向けた施設の有効利用について十分に検討していく。
	第2四半期	②意見・提言 まずは工程表をつくり、実行していくことが必要と思われる。 新商品について、試作研究を厳格に行い、多くの意見を集め、新加工施設の有効利用を徹底していただきたい。	
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・3委員 改善・見直し・・・1委員 廃止・終了・・・なし	新加工施設の開設により、食の分野から新商品の開発ができるよう支援を継続する。
	総括（第4四半期も含む）	②意見・提言 ブランド商品認定数が0件となっている。知名度の高い「益子焼」があるが、あらためて地域ブランド認定品が必要かどうか、再検討が必要。	

		課局名	観光商工課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	スモールビジネスの推進と起業支援による産業づくり		
施策	ものづくりの育成・支援	進捗状況	100%		
KPI	ブランド商品認定数（累計）	本年度目標値	16件	現状値	0件
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月		②手仕事バンクをPRするため広報4月号、お知らせ版4月上半期号に掲載 ②道の駅やミチカケ等、手仕事関係の方に手仕事バンクへの登録依頼通知を送付（4/8）問合せ7件、掲載件数6件 ④かさましこウェブサイト「陶の里かさましこ」情報更新。4/23。陶芸メッセ企画展「備前」を掲載。		
	5月	②手仕事バンクウェブサイトの運営、PR ④かさましこ観光協議会において、連携事業の実施。	②手仕事バンクへの問合せ1件、掲載件数2件（トータル8件）		
	6月		②町HPトップ画面にバナーを掲載 ②手仕事関係者に手仕事バンクへの掲載依頼チラシを再送付 ④かさましこ総会6/19。事業報告・事業計画の承認。今年度の新規事業として渋谷ヒカリエにおいて益子焼・笠間焼の作家展を企画。		
	7月		②手仕事バンク掲載件数3件追加（トータル件数11件）		
	8月	①ブランド認定制度の検討 ②手仕事バンクウェブサイトの運営、PR ③インキュベーションセンター設置の検討 ④かさましこ観光協議会において、連携事業の実施。	②手仕事バンク掲載件数3件追加（トータル件数14件） ②手仕事バンクHPのリニューアルを完了した		
	9月		②手仕事バンク掲載件数1件追加（トータル件数15件） ④かさましこ観光協議会「かさましこ観光物産展2/27-3/2（渋谷ヒカリエ）について」打合せ。9/13		
	10月		④かさましこウェブサイト「陶の里かさましこ」情報更新。10/13。陶芸メッセ企画展「土と抽象」を掲載。		
	11月	①ブランド認定制度の検討 ②手仕事バンクウェブサイトの運営、PR ③インキュベーションセンター設置の検討 ④かさましこ観光協議会において、連携事業の実施。	②手仕事バンクHP掲載写真の取材 ④かさましこ観光連携事業「益子秋の陶器市」にてパンフレット配布。500部。11/2 ④かさましこ幹事会「かさましこ観光物産展2/27-3/2（渋谷ヒカリエ）について」11/15		
	12月				
	1月		④かさましこ幹事会「かさましこ観光物産展2/27-3/2（渋谷ヒカリエ）について」打合せ 1/29		
	2月	①ブランド認定制度の検討 ②手仕事人材バンクの運営、PR ③インキュベーションセンター設置の検討 ④かさましこ観光協議会において、連携事業の実施。	④かさましこ観光物産展「GO KASAMASHIKO via TOKYO 2020」2/27-3/2 来場1,300人 売上5,288,270円 ※新型コロナウイルス拡散防止のため、人員派遣は行わなかった		
	3月		②手仕事バンク掲載者に掲載内容の確認通知と、令和2年8月～10月開催予定の道の駅での展示について協力依頼の通知を発送。		

	<p>③担当課の点検・検証</p> <p>②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点</p>
<p>第1四半期</p>	<p>②手仕事バンクを町のホームページに開設することができた。</p> <p>④かさましこ事業として、益子町（益子焼）笠間市（笠間焼）連携で行う誘客事業・回遊事業等について検討することが出来た。</p>	<p>②手仕事バンク掲載者が8名で停滞してしまったので、引き続きPRに努めてHP掲載者を増やしていく。</p> <p>④笠間市と連携し、効果的なPR活動に努める。</p>
<p>第2四半期</p>	<p>②手仕事バンクのホームページのリニューアルが完成し、紹介する内容の充実を図ることができた。</p> <p>④かさましこ事業として、益子町（益子焼）笠間市（笠間焼）連携で行う誘客事業・回遊事業等について検討することが出来た。</p>	<p>②手仕事バンク掲載者が15名まで増やすことができたが、現在停滞しているため、引き続きPRに努めてHP掲載者を増やしていく。</p> <p>④笠間市と連携し、効果的なPR活動に努める。</p>
<p>第3四半期</p>	<p>④かさましこ事業として、益子町（益子焼）笠間市（笠間焼）連携で行う誘客事業・回遊事業等について検討することが出来た。</p>	<p>②手仕事バンク新規掲載者の開拓に努める。</p> <p>②手仕事人材バンク掲載者にHP掲載内容に変更等があるかどうかの確認をし最新の情報を提供できるように努める。</p> <p>④笠間市と連携し、効果的なPR活動に努める。</p>
<p>第4四半期</p>	<p>②手仕事バンク掲載者に掲載内容の確認通知と、令和2年8月～10月開催予定の道の駅での展示について協力依頼の通知を発送することができた。</p> <p>④かさましこ事業として、益子町（益子焼）笠間市（笠間焼）連携で行う誘客事業・回遊事業等について検討することが出来た。</p>	<p>②令和2年度の道の駅での展示に向けての準備を整えるとともに、協力者との連携を図りスムーズな開催に努める。</p>

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 年間計画（スケジュール・工程）に沿った事業運営を継続されたい。	各取組とも第2四半期の方針・改善点を踏まえて実施する。
	第2四半期		
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 日本遺産の認定を弾みとし、交流・合同企画の活性化やwebの積極的な活用を進めるべきと思われる。	消費者に手仕事や伝統工芸品の良さを伝えるため、日本遺産認定をブランドとした交流・企画事業の推進を図ってまいります。
	総括（第4四半期も含む）		

		課局名	農政課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	スモールビジネスの推進と起業支援による産業づくり		
施策	世界一が集う焼きものの町づくり	進捗状況	100%		
KPI	益子焼総販売額	本年度目標値	38億円(R1)	現状値	23.0億円(R1)
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主な取組内容	4月		③企画展示事業について、受託者である(株)ましこカンパニーに対し、交付決定を行なった。 ③展示場の展示替えを行ない、第1回目となる企画展示「BOTTE&SUTTO」を開催した。（会期4/13～6/9）		
	5月	③事業を行う実施主体が企画展事業に着手。 ③実施者が、今期一回目となる企画展示事業を実施する。 ③実施者が、二回目となる企画展示事業の準備に着手する。	③企画展示「BOTTE&SUTTO」を継続して展示するとともに、次期企画展に向けた準備を開始した。		
	6月		③企画展示「BOTTE&SUTTO」が終了し、第二展示を準備。 「いわむらかずお」展を開始した。（会期6/29～8/9）		
	7月		③「いわむらかずお」展（継続）。次期展示「藤原郁三展」に向けた準備を開始。 夏季に入り多くの来場者が見込まれることから展示を含めレイアウト配置を見直すなどし、サービスの向上を図る。		
	8月	③実施者が、二回目となる企画展示事業を実施する。 ③実施者が、三回目となる企画展示事業の準備に着手する。	③「いわむらかずお」展（継続）。次期展示「藤原郁三展」に向けた準備を開始。		
	9月		③スポット企画「器がつなぐ益子の食めぐり」を開催。 次期企画の準備を継続して実施。		
	10月		③企画展示「藤原郁三展」の開催。（会期10/19～12/22）		
	11月	③実施者が、三回目となる企画展示事業を実施する。 ③実施者が、四回目となる企画展示事業の準備に着手する。	③企画展示「藤原郁三展」の開催。		
	12月		③企画展示「藤原郁三展」の開催。		
	1月		③次期展示に向けた準備を開始。		
	2月	③実施者が、四回目となる企画展示事業を実施する。	③企画展示「農家と道の駅展」の開催。（会期2/15～3/31） 次年度に向けた事業計画を作成し、町と実施について協議を行なった。		
	3月		③企画展示「農家と道の駅展」の開催。 本年度分に係る企画展示事業の実績及び成果の確認を行った。		

	<p>③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度) 以降の課題への方針・改善点</p>
<p>第1 四半期</p>	<p>③受託者が適正に事業を実施しているが、企画展示事業の主旨に沿った企画・展示内容が求められる。</p>	<p>③町が求める企画展示事業の主旨や効果について、適切な指導を行なうなどし意思共有を図っていく。</p>
<p>第2 四半期</p>	<p>③受託者が適正に事業を実施している。</p>	<p>③実施者と次期展示に向けた協議・調整を行う。効果検証の実施に向けた調整を行う。</p>
<p>第3 四半期</p>	<p>③受託者が適正に事業を実施している。</p>	<p>③町が求める企画展示事業の主旨や効果について、適切な指導を行なうなどし意思共有を図っていく。</p>
<p>第4 四半期</p>	<p>③受託者が適正に事業を実施しているが、事業主旨に沿った企画・展示が求められる。また、施設供用開始から4期目を数え、展示回数が増すにつれ、企画が困難になってきている現状にある。</p>	<p>③事業主旨や内容、役割を再検討するなど、効果的かつ効率的な事業の遂行が求められる。本事業に関しては、所管課において事業を実施することが望ましく、次期総合計画で事業の是非も含め検討を要する。</p>

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	多くの方を参加可能とする企画を実施者と協議調整する。
	第2四半期	②意見・提言 道の駅ましこが実施する土祭や世間遺産のポタリングガイドツアーを継続し、町内外への周知を期待したい。 フォトコンテストなど、万人参加可能な取組の増加を望む。	
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・3委員 改善・見直し・・・1委員 廃止・終了・・・なし	事業主旨や内容、役割を再検討し、効果的かつ効率的な事業実施に努めていきたい。
	総括（第4四半期も含む）	②意見・提言 展示なのか販売なのか、趣旨を明確にすべき。	

		課局名	観光商工課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	スモールビジネスの推進と起業支援による産業づくり		
施策	世界一が集う焼きものの町づくり	進捗状況	100%		
KPI	益子焼総販売額	本年度目標値	38億円(R1)	現状値	23.0億円(R1)
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主な取組内容	4月		①③益子焼新商品「BOTE&SUTTO」展示販売（会場：道の駅ましこ）4/13-6/9。 ②条例PR用ぐい飲みを購入しアメリカンクラブで益子焼のPRを実施（4/5） ②インスタグラムへの掲載（2回）フォロワー786人		
	5月	①深澤デザインと新商品開発事業について販路開拓及びPR活動 ②益子焼を使おう条例の推進 ③道の駅を拠点に、益子焼などの工芸品を暮らしの空間に取り入れられるよう推進 ④益子国際工芸交流館を拠点に、世界中から焼きものを学びに来る仕組みづくりの構築 ⑤窯業技術支援センターでの人材育成支援 ⑥益子芳星高校で行なわれている益子焼の授業の充実に協力	①益子焼新商品「BOTE&SUTTO」町内商品発表（会場：参考館）5/22。トーク&ディスカッション。（チーフ・深澤直人×窯元3名×町長）入場者78名 ②インスタグラムへの掲載（1回） ④リチ工房研修プログラム2020応募締切5/31（応募者6名・益子焼陶芸家）		
	6月		①③益子焼新商品「BOTE&SUTTO」道の駅ましこでの常設展示販売。6/10- ②条例PR用マグカップの購入、ましこdeカフェの実施（6/9） ②インスタグラムへの掲載（4回）フォロワー865人 ④5/22～6/29迄 公募作家伊藤・ラズモス氏滞在 公募作家によるワークショップ、記念講演会等の実施（49人・4回）。交流事業2018成果展3/30～6/30迄開催。 ⑥益子芳星高校へ協力内容について連絡		
	7月	①深澤デザインと新商品開発事業について販路開拓及びPR活動 ②益子焼を使おう条例の推進 ③道の駅を拠点に、益子焼などの工芸品を暮らしの空間に取り入れられるよう推進 ④益子国際工芸交流館を拠点に、世界中から焼きものを学びに来る仕組みづくりの構築 ⑤窯業技術支援センターでの人材育成支援 ⑥益子芳星高校で行なわれている益子焼の授業の充実に協力	①新商品開発事業「BOTE&SUTTO」についての運営・事務局を MASHIKO Product（代表：濱田友緒の民間団体）が事業継続し行う。町はPR等の協力を行う。 ②フォトコンテストPR用ポスター印刷業者決定 ②インスタグラムへの掲載（7回）フォロワー893人		
	8月		②フォトコンテストのチラシ、ポスターが完成し、チラシを全戸配布した ②インスタグラムへの掲載（4回）フォロワー926人 ③道の駅での「器がつながる益子の食めぐり」を開催8/24～10/6 ④リチ工房研修プログラム2020派遣作家説明会8/31・2名 ⑤人材育成支援事業8/24開校式（今年度2名参加）		
	9月		②フォトコンテストの募集を開始（147件） ②インスタグラムへの掲載（2回）フォロワー995人 ③道の駅での「器がつながる益子の食めぐり」を開催8/24～10/6 ④イリス デザインミュージアム館長滞在 9/4-9/7 ⑤人材育成支援事業（9/7, 28）		
	10月		①MASHIKO Product × 伊藤・新商品開発事業「エンソマリー氏ワークショップ」10/1-3 ②フォトコンテストの応募写真募集中 ⑤人材育成支援事業（10/12） ⑥今年度分の益子芳星高校で使用する益子焼関係の消耗品の購入支援を完了		
	11月	①深澤デザインと新商品開発事業について販路開拓及びPR活動 ②益子焼を使おう条例の推進 ③道の駅を拠点に、益子焼などの工芸品を暮らしの空間に取り入れられるよう推進 ④益子国際工芸交流館を拠点に、世界中から焼きものを学びに来る仕組みづくりの構築 ⑤窯業技術支援センターでの人材育成支援 ⑥益子芳星高校で行なわれている益子焼の授業の充実に協力	①MASHIKO Product × 伊藤・新商品開発事業「エンソマリー」考える。益子の新しい伝統に向けて 展」オープニングセレモーション MUJI銀座。11/29 ②陶器市でフォトコンテストのPRを実施 ②町民まつりで益子焼の箸おきの無料配布を行いPR（11/16） ④10/6～11/17迄 招聘作家ジェファーリー氏滞在 ワークショップ、記念講演会等の実施（180人・4回）。アーティスト・イン・レジデンス研究会参加（女子美術大学11/29、30） ⑤人材育成支援事業（11/16, 30）		
	12月		②フォトコンテストの応募投稿数725件。審査会を実施し受賞者を決定し（12/10）、受賞者及び受賞作品の公表を実施した（12/27） ②益子大使と宣伝部長に益子焼を送りPRしていただく商品（BOTE&SUTTO）を発注（12/9） ④リチ工房研修プログラム2020事前打合せ（イリス12/10-12/17） ⑤人材育成支援事業（12/7, 14）		
	1月	①深澤デザインと新商品開発事業について販路開拓及びPR活動 ②益子焼を使おう条例の推進 ③道の駅を拠点に、益子焼などの工芸品を暮らしの空間に取り入れられるよう推進 ④益子国際工芸交流館を拠点に、世界中から焼きものを学びに来る仕組みづくりの構築 ⑤窯業技術支援センターでの人材育成支援 ⑥益子芳星高校で行なわれている益子焼の授業の充実に協力	①まちづくりアドバイザー事業（次年度英国事業）に向けて深澤事務所訪問1/15 ②③道の駅でのフォトコンテストパネル展示に向けての準備を進めた ⑤人材育成支援事業（1/25）		
	2月		②③道の駅でのフォトコンテストパネル展示に向けての準備を進めた ⑤人材育成支援事業（2/8, 11, 15, 16, 21, 28）		
	3月		②条例PR用のポスターとチラシを作成。町内店舗及び北関東の道の駅に送付 ②益子大使と宣伝部長にPR用の益子焼（「BOTE&SUTTO」のプレート）を送りPRの協力依頼をした ②③道の駅でのフォトコンテストパネル展示開催（3/6～4/5） ④伊藤・ラズモス氏、ジェファーリー氏の2名による成果展の開催（3/28～） ⑤人材育成支援事業（3/3, 9）		

	<p>③担当課の点検・検証</p> <p>②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点</p>
<p>第1四半期</p>	<p>①益子焼新商品「BOTE&SUTTO」の企画展示、商品発表イベントについては、デザイン、販売元、窯元等と連携し、効果的に実施することが出来た。</p> <p>②益子焼使おう条例の推進のためのイベントやInstagramへの掲載をすることができた。</p> <p>④2020年に向けたリーチ工房研修プログラムに6名の応募終了。公募作家リーナ・ラスモフスカヤ氏によるワークショップ、講演会、公開制作等を開催し、町内外の陶芸工芸作家との交流プログラムの推進が図れた。また、交流事業成果展2018を陶芸美術館で開催し、美術館事業と国際交流事業が連携することができた。</p>	<p>①益子焼新商品「BOTE&SUTTO」が国内外向けに行うPRと販路拡大について、関係機関と協議し進めていく必要がある。(販売、製造管理については町内団体「MASHIKO Product」(代表：濱田友緒)が行う。)</p> <p>②継続的にInstagramへ掲載しフォロワーを増やしていくように努める。また、フォトコンテストに向けて準備を図る。</p> <p>④リーチ工房研修プログラム2020の応募者について、派遣陶芸家の決定準備を進める。また、2019秋招聘作家プログラムの事前準備を推進していく。</p>
<p>第2四半期</p>	<p>①益子焼新商品「BOTE&SUTTO」の運営・事務局については民間団体MASHIKO Productが継続し実施する。</p> <p>②フォトコンテストの募集を開始することができた。</p> <p>③道の駅を拠点に益子焼のPR「器がつなぐ益子の食めぐり」を開催することができた。</p> <p>④2020年に向けたリーチ工房研修プログラム2名が決定し、派遣作家への説明会・勉強会を開催、また、2019秋招聘作家ジェファーリー氏10/6～滞在の事前準備(チラシ等作成配布)をし事業推進が図れた。</p>	<p>①益子焼新商品「BOTE&SUTTO」が国内外向けに行うPRと販路拡大について、関係機関と協力し進めていく。(販売、製造管理については町内団体「MASHIKO Product」(代表：濱田友緒)が行う。)</p> <p>②フォトコンテスト応募者が増えるよう効果的なPRの実施が課題。</p> <p>③道の駅と連携し次回以降の展示の実施に向けて検討。</p> <p>④2019秋招聘作家ジェファーリー氏10/6～滞在のための実施遂行を行う。</p>
<p>第3四半期</p>	<p>①益子焼新商品「BOTE&SUTTO」の運営・事務局については民間団体MASHIKO Productが継続し実施する。</p> <p>①MASHIKO Product事業として、新たな益子焼新商品開発への取組みが進んだ。</p> <p>②フォトコンテストを無事に終了することができ、SNSフォロワーがフォトコンテスト実施により1,000人を越えることができた。</p> <p>④招聘作家ジェファーリー氏によるワークショップ、公開制作、講演会を開催し、町内外の陶芸工芸作家との交流プログラムの推進が図れた。国内AIR運営団体との研修研究会に参加し、情報交換を行えた。リーチ工房研修プログラム2020に向けての準備で、リーチ工房との打合せをすることができた。</p>	<p>①益子焼新商品「BOTE&SUTTO」が国内外向けに行うPRと販路拡大について、関係機関と協力し進めていく。(販売、製造管理については町内団体「MASHIKO Product」(代表：濱田友緒)が行う。)</p> <p>③3月に道の駅で実施予定のフォトコンテストパネル展示に向けて関係者と連携しスムーズな開催に努める。</p> <p>④交流事業2019の成果展の開催準備や事業広報を推進していく。</p>
<p>第4四半期</p>	<p>①益子焼新商品「BOTE&SUTTO」の運営・事務局については民間団体MASHIKO Productが継続し実施する。</p> <p>②③道の駅でのパネル展示では、道の駅を訪れたたくさんの方に見ていただくことができ、好評を得られた。</p> <p>④成果展の準備をし開催することができた。リーチ工房研修プログラム2020に向けての準備(派遣作家の渡英手続き)が進められた。</p> <p>⑤人材育成支援事業では、益子ならではの登り窯での焼成体験もすることができ貴重な経験となった。</p>	<p>①益子焼新商品「BOTE&SUTTO」の国内外向けPRと販路拡大について、関係機関と協力し進めていく。(販売、製造管理については町内団体「MASHIKO Product」(代表：濱田友緒)が行う。)</p> <p>③道の駅でのパネル展示を次年度も開催予定なのでスムーズな開催に向けて道の駅と連携を図っていく。</p> <p>④公募作家及び招聘作家の2020プログラムの事業推進、及びリーチ工房研修プログラムの2020事業推進を図る。</p>

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	①益子焼新商品「BOTE&SUTTO」の国内外に向けたPR・販路拡大について、販売元や関係機関と協力し進めていく。
	第2四半期	②意見・提言 BOTE & SUTTOの宣伝を強化されたい。	
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	益子焼の新たな魅力を伝える新商品開発やプロモーションを推進し、従来の益子焼愛好家に加え、幅広いニーズに対応する焼物の産地となるよう努めます。
	総括（第4四半期も含む）	②意見・提言 年間計画（スケジュール・工程）に沿った事業運営を継続されたい。	

		課局名	環境課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	スモールビジネスの推進と起業支援による産業づくり		
施策	就労支援と雇用創出	進捗状況	100%		
KPI	有効求人倍率	本年度目標値	0.9	現状値	0.77 (1月～12月)
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画 (スケジュール・工程)		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月			未実施	
	5月	④林道生田目線において、道路沿いの除草作業や側溝清掃の現地確認等		④林道生田目線現地調査	
	6月			④林道生田目線作業に向けたシルバー人材センターとの連絡調整	
	7月			④シルバー人材センターと現地確認	
	8月	④林道生田目線において、道路沿いの除草作業の実施		④シルバー人材センターに除草作業依頼	
	9月			④林道生田目線道路沿いの除草作業実施	
	10月			④シルバー人材センターと現地確認	
	11月			④シルバー人材センターに清掃作業依頼	
	12月			④林道生田目線の側溝清掃作業実施	
	1月	④林道生田目線において、側溝清掃作業の実施		④林道生田目線状況確認	
	2月			④林道生田目線状況確認	
	3月			④林道生田目線状況確認	

	<p>③担当課の点検・検証 (②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。)</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点</p>
<p>第1四半期</p>	<p>④シルバー人材センターへ効率的な業務委託ができるよう努めていく必要がある。</p>	<p>④業務委託を行い、早期に除草作業を行ってもらうよう依頼する。</p>
<p>第2四半期</p>	<p>④シルバー人材センターとの連絡調整がうまくいかず、作業実施時期が例年より遅くなってしまった。</p>	<p>④作業を適切な時期に実施するために、シルバー人材センターとの連絡を密にしていく。</p>
<p>第3四半期</p>	<p>④林道生田目線の側溝清掃については、例年より早い時期に実施することができ、今年度の事業は完了した。</p>	<p>④林道の除草作業については、他の林道は年2回実施していることから、生田目線においても年2回実施するように検討する。</p>
<p>第4四半期</p>	<p>④林道生田目線の作業は、シルバー人材センターに依頼するため早い時期に相談する必要がある。</p>	<p>④林道の作業については、年間を通して委託契約しているため作業時期が曖昧になってしまうので、適切な作業時期にあわせて委託契約を締結するようにする。</p>

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	関係課及びシルバー人材センターとの連携を図り適切な時期内容の検討を行い事業をすすめていく。
	第2四半期	②意見・提言 年間計画（スケジュール・工程）に沿った事業運営を継続されたい。	
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	関係課及びシルバー人材センターとの適切な連携を密に図り、町有林整備事業をすすめていくことでシルバー人材の就労支援にも繋げていく。
	総括（第4四半期も含む）	②意見・提言 年間計画（スケジュール・工程）に沿った事業運営を継続されたい。	

		課局名	高齢者支援課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	スモールビジネスの推進と起業支援による産業づくり		
施策	就労支援と雇用創出	進捗状況	100%		
KPI	有効求人倍率	本年度目標値	0.9	現状値	0.77 (1月～12月)
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画 (スケジュール・工程)		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月			①近隣市町の特別養護老人ホーム・老人保健施設等の整備に関して、進捗状況を情報収集した。 ④シルバー人材センターへウッドチップperを貸与(4/4,5,8,9,11,12)	
	5月	①社会福祉法人の誘致検討 ④シルバー人材センターの請負業務拡大		④シルバー人材センターへウッドチップperを貸与(5/13,14)	
	6月			①近隣市町の特別養護老人ホーム・老人保健施設等の整備に関して、進捗状況を情報収集した。 ④6/14シルバー人材センター総会	
	7月			①近隣市町の特別養護老人ホーム・老人保健施設等の整備に関して、進捗状況を情報収集した。	
	8月	①社会福祉法人の誘致検討 ④シルバー人材センターの請負業務拡大		①近隣市町の特別養護老人ホーム・老人保健施設等の整備に関して、進捗状況を情報収集した。 ④シルバー人材センターと新たな事業への取組みの検討を行った。	
	9月			①近隣市町の特別養護老人ホーム・老人保健施設等の整備に関して、進捗状況を情報収集した。	
	10月			①近隣市町の特別養護老人ホーム・老人保健施設等の整備に関して、進捗状況を情報収集した。	
	11月	①社会福祉法人の誘致検討 ④シルバー人材センターの請負業務拡大		①近隣市町の特別養護老人ホーム・老人保健施設等の整備に関して、進捗状況を情報収集した。 ④シルバー人材センターへウッドチップperを貸与(11/25～29)	
	12月			①近隣市町の特別養護老人ホーム・老人保健施設等の整備に関して、進捗状況を情報収集した。 ④シルバー人材センター理事会(12/18)、シルバー人材センターの門松販売の案内(庁内回覧)、ウッドチップperを貸与(12/2,11,12)	
	1月			①近隣市町の特別養護老人ホーム・老人保健施設等の整備に関して、進捗状況を情報収集した。 ④シルバー人材センター理事会(1/23)、シルバー人材センターへウッドチップperを貸与(1/10)	
	2月	①社会福祉法人の誘致検討 ④シルバー人材センターの請負業務拡大		①近隣市町の特別養護老人ホーム・老人保健施設等の整備に関して、進捗状況を情報収集した。 ④シルバー人材センターへウッドチップperを貸与(2/5,6,7,10,12,13,14,18,19,25,27,28)	
	3月			①近隣市町の特別養護老人ホーム・老人保健施設等の整備に関して、進捗状況を情報収集した。 ④シルバー人材センター新料金表を3月号の広報ましこに掲載、シルバー人材センター理事会(書面会議)、シルバー人材センターへウッドチップperを貸与(3/17,18,19,23,26)	

	<p>③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度) 以降の課題への方針・改善点</p>
<p>第1 四半期</p>	<p>①入所待機者数の推移や近隣市町の整備状況等を考慮し、今後の方向性を検討していく。</p>	<p>①近隣市町における高齢者施設整備の進捗状況等について、引き続き情報収集に努めるとともに、本町における施設整備について再度検討し、今後の方向性を見出す。</p>
<p>第2 四半期</p>	<p>①入所待機者数の推移や近隣市町の整備状況等を考慮し、今後の方向性を検討していく。 ④シルバー人材センターの収益の拡大が難しいため、新規事業の検討を行う。</p>	<p>①近隣市町における高齢者施設整備の進捗状況等について、引き続き情報収集に努めるとともに、本町における施設整備について再度検討し、今後の方向性を見出す。 ④シルバー人材センターの新規事業の検討を継続して行っていく。</p>
<p>第3 四半期</p>	<p>①入所待機者数の推移や近隣市町の整備状況等を考慮し、今後の方向性を検討していく。 ④シルバー人材センターの収益の拡大が難しいため、新規事業の検討を行う。</p>	<p>①近隣市町における高齢者施設整備の進捗状況等について、引き続き情報収集に努めるとともに、本町における施設整備について再度検討し、今後の方向性を見出す。 ④シルバー人材センターの新規事業の検討を継続して行っていく。</p>
<p>第4 四半期</p>	<p>①入所待機者数の推移や近隣市町の整備状況等を考慮し、今後の方向性を検討していく。 ④シルバー人材センターの収益の拡大が難しいため、新規事業の検討を行う。</p>	<p>①近隣市町における高齢者施設整備の進捗状況等について、引き続き情報収集に努めるとともに、本町における施設整備について再度検討し、今後の方向性を見出す。 ④シルバー人材センターの新規事業の検討を継続して行っていく。</p>

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 年間計画（スケジュール・工程）に沿った事業運営を継続されたい。	①施設入所を希望する入所待機者数等の把握に努めるとともに、近隣市町における施設整備の進捗状況等について、引き続き情報収集に努め、本町の施設整備方針を再考する。 ②今後も引き続き、シルバー人材センターの新規事業の検討を継続して行っていく。
	第2四半期		
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 年間計画（スケジュール・工程）に沿った事業運営を継続されたい。	①入所待機者数の推移に注視しながら近隣市町の施設整備状況等の情報収集に努め、本町における施設整備について検討していく。 ②シルバー人材センター推進事業補助金や新規事業の検討を継続して行など、高齢者の就労の支援をしていく。
	総括（第4四半期も含む）		

		課局名	観光商工課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	スモールビジネスの推進と起業支援による産業づくり		
施策	就労支援と雇用創出	進捗状況	100%		
KPI	有効求人倍率	本年度目標値	0.9	現状値	0.77 (1月～12月)
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画 (スケジュール・工程)		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月			②パソコンセミナー、求職者セミナーの委託業者の決定	
	5月	①町HPにおいて企業誘致制度のPR ②求職者を対象としたセミナー・合同就職面接会の検討 ③求職者向けセミナーの実施 ④雇用支援奨励金制度についてのPR		②パソコンセミナーの実施 (5/15, 16, 29, 30 延べ参加人数68人) ③合同就職面接会を4町で2/13に実施すること及び4町の役割分担を決定 ④女性と高齢者の新規就業支援セミナーを県と共催で実施することを決定 ⑤雇用支援奨励金制度について町内企業を訪問し案内 (9社)	
	6月			②求職者セミナーの実施 6/18 (9人)、6/27 (11人) ③県との共催セミナーの実施日を決定 (8/9, 9/6, 10/4)	
	7月			②求職者セミナーの実施 7/17 (10人) 7/23 (12人) 7/30 (9人)	
	8月	①町HPにおいて企業誘致制度のPR ②求職者を対象としたセミナー・合同就職面接会の検討 ③求職者向けセミナーの実施 ④雇用支援奨励金制度についてのPR		②求職者セミナーの実施 8/21 (14人) 8/29 (9人) ③県との共催セミナー (高齢者向け) の実施 8/9(3人)	
	9月			②求職者セミナーの実施 9/11 (6人) 9/25 (9人) ③商工会との共催セミナーの実施 9/5 (12人) 9/12 (9人) ④県との共催セミナー (女性向け) の実施 9/6(9人) ⑤4町合同就職面接会打合せ (9/26) ⑥雇用支援奨励金制度の案内をお知らせ版に掲載 (9月上旬期号)	
	10月			③県との共催セミナー (女性向け) の実施 10/4(10人) ④求職者セミナーの実施10/16 (12人) 10/25 (16人) ⑤4町合同就職面接会参加企業募集チラシを新聞折込でPR (10/28)	
	11月	①町HPにおいて企業誘致制度のPR ②求職者を対象としたセミナー・合同就職面接会の検討 ③求職者向けセミナーの実施 ④雇用支援奨励金制度についてのPR		②パソコンセミナーの実施 (11/13, 14, 27, 28 延べ参加人数81人) ③合同就職面接会打合せ (11/25)	
	12月			②合同就職面接会参加企業の取りまとめ終了 (益子町14社) ③合同就職面接会チラシとポスターが刷り上がり、町内各所に掲示依頼済 ④合同就職面接会開催お知らせを町HPに掲載 (12/25)	
	1月			②合同就職面接会案内チラシを新聞折込で周知 (1/10) ③合同就職面接会参加企業の業種をHPに掲載	
	2月	①町HPにおいて企業誘致制度のPR ②求職者を対象としたセミナー・合同就職面接会の検討 ③求職者向けセミナーの実施 ④雇用支援奨励金制度についてのPR		②合同就職面接会の開催 (2/13)	
	3月			③雇用支援奨励金のPRについて4月号広報に掲載予定。	

	<p>③担当課の点検・検証 (②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。)</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点</p>
<p>第1四半期</p>	<p>②セミナー参加者からは、受講してよかったとの意見をいただけたが、もう少し多く参加してもらえるようにしていきたい。 ②4町合同就職面接会の開催について決定することができた。</p>	<p>②セミナーの案内を早め早めに準備し、引き続き全戸配布のチラシ、HPへの掲載、町内施設等への設置を継続しPRに努める。 ②4町で実施するため、連携を密に取りながら準備等に努める。</p>
<p>第2四半期</p>	<p>②セミナー開催を予定どおり開催することができた。参加者数が伸びていかないことが課題。 ②4町合同就職面接会の役割分担、タイムスケジュールを決定することができた。</p>	<p>②引き続き全戸配布のチラシ、HPへの掲載、町内施設等への設置を継続しPRに努める。 ②4町で実施するため、連携を密に取りながら準備等に努める。 ②参加企業募集のPRを実施し、予定数10社を確保できるように努める。</p>
<p></p>	<p>②今年度予定していた全セミナーを終了することができた。 ②合同就職面接会への参加企業を決定し、HPやポスター、チラシ等でPRを実施した。</p>	<p>②合同就職面接会に向けて引き続きPRを実施するとともに、関係機関と連携協力し開催準備に努める。</p>
<p>第4四半期</p>	<p>②4町での合同就職面接会を開催することができた。 ④雇用支援奨励金の案内を広報に掲載することができた。</p>	<p>②次年度の求職者セミナーの開催に向けて、内容や開催時期などについて検討を図り、効果的な開催に努める。 ④雇用支援奨励金の支払業務が開始となるため、制度内容について研鑽し、スムーズな手続きができるように努める。</p>

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 年間計画（スケジュール・工程）に沿った事業運営を継続されたい。	各取組とも第2四半期の方針、改善点を踏まえて実施する。
	第2四半期		
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 年間計画（スケジュール・工程）に沿った事業運営を継続されたい。	各取組とも第3,4四半期の方針、改善点を踏まえて実施に努めたい。
	総括（第4四半期も含む）		

		課局名	観光商工課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	観光の基幹産業化		
施策	観光客誘客の拡大	進捗状況	100%		
KPI	観光客入込数	本年度目標値	285万人	現状値	290.9万人
KPI	観光客宿泊者数	本年度目標値	49,000人	現状値	47,550人
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月		⑥アツク-DC事業「駅からいちご狩り」キックオフイベント3/31参加200人。 ⑥アツク-DC事業「ホタルリングましこ」道の駅ましこ事業。4/14参加12名。 ⑥アツク-DC事業「益子の美術館めぐり」5館PR・2館共通チケット4月販売69枚。		
	5月	①観光戦略会議において、観光客の戦略的誘客について検討。DMO等設立を見据えた組織づくりの推進。 ②ラーニングパッケージの検討・情報発信・事業実施。 ③レンタサイクル事業について連携等検討。 ④宿泊施設「ましこ悠和館」御座所・ギャラリーの一部開館6/12。 ⑥土祭20187-カイト本制作。土祭2021に向けた構成員の選定。 ⑥観光イベントの支援。DC事業の実施。 ⑦益子大使による観光PR活動への支援。	①第1回観光戦略会議5/13。委員出席5/7人。 ⑥アツク-DC事業「はが路まんぶく列車DL&SLもおか」5/18。参加者97人。 ⑥アツク-DC事業「ホタルリングましこ」道の駅ましこ事業。5/19参加15名。 ⑥アツク-DC事業「益子の美術館めぐり」5館PR・2館共通チケット5月販売62枚。		
	6月	⑥土祭20187-カイト本制作。土祭2021に向けた構成員の選定。 ⑥観光イベントの支援。DC事業の実施。 ⑦益子大使による観光PR活動への支援。	①観光戦略マーケティング担当職員（地域おこし協力隊）水野大人採用6/16 ②ラーニングパッケージ「益子小麦物語①」6/16。参加13人。 ④宿泊施設「ましこ悠和館」開館式典6/12。皇室高門宮内閣下臨席。参列者100人。両殿下御見送り約400人。 ④ましこ悠和館ギャラリー6月入場者1,251人。 ⑥アツク-DC事業「ましこdeカエ」6/8。入場者3,000人。 ⑥アツク-DC事業「ホタルリングましこ」道の駅ましこ事業。6/8参加19名。 ⑥アツク-DC事業「益子の美術館めぐり」5館PR・2館共通チケット6月販売48枚。		
	7月	①観光戦略会議において、観光客の戦略的誘客について検討。DMO等設立を見据えた組織づくりの推進。 ②ラーニングパッケージの検討・情報発信・事業実施。 ③レンタサイクル事業について連携等検討。 ④宿泊施設「ましこ悠和館」御座所・ギャラリー運営。宿泊施設開業に向けての運営事業者との協議。 ⑤各種パンフレットなどを統合した情報誌の検討。 ⑥土祭20187-カイト本制作。土祭2021に向けた構成員の選定。 ⑥観光イベントの支援。DC事業の実施。 ⑦益子大使による観光PR活動への支援。	①第2回観光戦略会議「観光戦略ビジョンの検討」7/22。委員出席7/7人。 ②ラーニングパッケージ「ましこドレッシングの会①」7/27。参加16人。 ②ラーニングパッケージ「益子の水藍物語①」7/28。参加7人。 ④ましこ悠和館ギャラリー7月入場者502人。 ④ましこ悠和館運営事業者サマエティからの辞退届承認。7/29 ⑤総合情報誌の制作については観光戦略事業にて実施を計画する。 ⑥アツク-DC事業「益子の美術館めぐり」5館PR・2館共通チケット7月販売53枚。		
	8月	⑤各種パンフレットなどを統合した情報誌の検討。 ⑥土祭20187-カイト本制作。土祭2021に向けた構成員の選定。 ⑥観光イベントの支援。DC事業の実施。 ⑦益子大使による観光PR活動への支援。	④ましこ悠和館ギャラリー8月入場者458人。 ④ましこ悠和館運営事業をましこカハニ経営会議にて受託。8/28 ⑥アツク-DC事業「益子の美術館めぐり」5館PR・2館共通チケット8月販売65枚。		
	9月		①第3回観光戦略会議「観光戦略コンセプトの検討」9/20。委員出席4/7人。 ④ましこ悠和館ギャラリー9月入場者422人。 ⑥アツク-DC事業「益子の美術館めぐり」5館PR・2館共通チケット9月販売33枚。		
	10月		①観光戦略アドバイザー山田氏との都内会議「講演会の開催について」10/25 ②ラーニングパッケージ「里山カールズ①」10/19。参加15人。 ②ラーニングパッケージ「益子の水藍物語②」10/13。台風19号により中止。 ④ましこ悠和館ギャラリー10月入場者394人。 ⑥アツク-DC事業「益子の美術館めぐり」5館PR・2館共通チケット10月販売42枚。		
	11月	①観光戦略会議において、観光客の戦略的誘客について検討。DMO等設立を見据えた組織づくりの推進。 ②ラーニングパッケージの情報発信・事業実施。 ③レンタサイクル事業について連携等検討。 ④宿泊施設「ましこ悠和館」御座所・ギャラリー運営。宿泊運営管理。 ⑤各種パンフレットなどを統合した情報誌の検討。 ⑥土祭20187-カイト本制作。土祭2021に向けた委員会の開催（2021開催日の決定、企画概要の立案・アート会場の選定）。 ⑥観光イベントの支援。DC事業の実施。 ⑦益子大使の委嘱及び観光PR活動への支援。	①観光戦略会議「戦略案・推進部会について」委員出席4/7名。11/13 ①観光戦略アドバイザー山田氏講演会「益子町が選ばれ続ける地域になるために」参加者91名。11/13 ②ラーニングパッケージ「益子小麦物語②」11/10。参加10人。 ②ラーニングパッケージ「ましこドレッシングの会②」11/16。参加16人。 ②ラーニングパッケージ「里山カールズ②」11/30。参加15人。 ④ましこ悠和館ギャラリー11月入場者599人。 ⑥土祭2021に向けての意見交換会。参加 2019地区委員6名。11/22 ⑥アツク-DC事業「益子の美術館めぐり」5館PR・2館共通チケット11月販売77枚。 ⑦益子大使（川口氏・仁村氏）委嘱状交付式（更新）11/24。		
	12月		④ましこ悠和館ギャラリー12月入場者146人。 ④ましこ悠和館宿泊運営に関する協定書について運営事業者（ましこカハニ）経営会議12/26で審議の上1月に締結予定。宿泊施設オープン日2/22。 ⑥アツク-DC事業「益子の美術館めぐり」5館PR・2館共通チケット12月販売2枚。 ⑦益子大使（林英哲氏）委嘱状交付式（新規）12/22。 ⑦益子大使7名・益子宣伝部長3名に特産品（苺）を贈呈。対外への特産品のPRが目的。		
	1月	①観光戦略会議において、観光客の戦略的誘客について検討。DMO等設立を見据えた組織づくりの推進。 ②ラーニングパッケージの情報発信・事業実施・事業報告会。 ③レンタサイクル事業について連携等検討。 ④宿泊施設「ましこ悠和館」御座所・ギャラリー運営。宿泊運営管理。 ⑤各種パンフレットなどを統合した情報誌の検討。 ⑥土祭20187-カイト本制作。土祭2021に向けた委員会の開催（2021開催日の決定、企画概要の立案・アート会場の選定）。 ⑥観光イベントの支援。DC事業の実施。 ⑦益子大使による観光PR活動への支援。	①観光戦略会議「DMOを作る目的について」委員出席7/7人。1/9 ①観光戦略会議「観光戦略骨子について」委員出席6/7人。1/20 ②ラーニングパッケージ「益子小麦物語③」1/26。参加13人。 ②ラーニングパッケージ「ましこドレッシングの会③」1/25。参加17人。 ④ましこ悠和館ギャラリー1月入場者192人。 ⑥アツク-DC事業「益子の美術館めぐり」5館PR・2館共通チケット1月販売30枚。		
	2月		②ラーニングパッケージ「益子の水藍物語③」2/9。参加14人 ②ラーニングパッケージ「里山カールズ③」2/29。中止 ④ましこ悠和館ギャラリー2月入場者187人。 ⑥アツク-DC事業「益子の美術館めぐり」5館PR・2館共通チケット2月販売33枚。		
	3月		①観光戦略会議「DMOに関する意見交換」委員出席6/7人。3/27 ④ましこ悠和館ギャラリー3月入場者66人。 ⑤土祭担当地域おこし協力隊採用1人決定。3/16 ⑥アツク-DC事業「益子の美術館めぐり」5館PR・2館共通チケット3月販売29枚。 ⑦益子大使 田原氏（剣道）本人の申出により益子焼PRのため益子焼を購入。（一部町補助）		

	<p>③担当課の点検・検証</p> <p>②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点</p>
<p>第1四半期</p>	<p>①観光戦略の必要性について関係団体に説明し合意形成を図った。ポイントカードシステム導入によるマーケティング戦略に向けた取組を推進する。 ②トレーニングパッケージ1事業について、予定通りの進捗。主催団体と連絡調整をし、メディアへの情報発信・参加者の申込み管理等滞りなくできている。今後も主催団体と連携を密に意思疎通図れるよう努める。 ④宿泊施設「ましこ悠和館」開館式典について滞りなく実施。今後の御座所・ギャラリーの運営について関係団体と協力し進める。 ⑥アツタ-DC事業の完了。関係団体と連携し、観光客誘客に繋がるイベントを実施することができた。</p>	<p>①観光戦略事業推進にあたり、関係機関との協議を進め、効果的な事業実施に向け取り組む。 ②トレーニングパッケージ実施団体と連携し、誘客につながるPRを推進するとともに、交付金の適正な執行管理に努める。 ③レンタル事業においては道の駅ましこ事業として推進している。 ④御座所・ギャラリーの情報発信等PRを推進し、誘客に繋げる。企画展の実施検討。 ⑥DC事業で行ったイベント等を、今後も継続していけるような組織体制を検討する必要がある。</p>
<p>第2四半期</p>	<p>①観光戦略のビジョン・コンセプトについて意見を集約し方向性を定めることが出来た。 ②トレーニングパッケージ1事業について、予定通りの進捗。主催団体と連絡調整をし、メディアへの情報発信・参加者の申込み管理等滞りなくできている。今後も主催団体と連携を密に意思疎通図れるよう努める。 ④ましこ悠和館ギャラリーの入場者は月目標300人を上回る入場実績となっている。宿泊の運営事業者についても新たな事業者が決定した。 ⑥アツタ-DCの継続事業「美術館めぐり」について協力体制を継続する。</p>	<p>①観光戦略事業推進にあたり、関係機関との協議を進め、効果的な事業実施に向け取り組む。 ②トレーニングパッケージ実施団体と連携し、誘客につながるPRを推進するとともに、交付金の適正な執行管理に努める。 ③レンタル事業においては道の駅ましこ事業として推進している。 ④御座所・ギャラリーの情報発信等PRを推進し、誘客に繋げる。企画展の実施検討。宿泊事業においては運営事業者との協定書の締結と、開業に向けた準備を協力し進める。 ⑤総合的情報誌の制作については観光戦略事業にて実施を計画する。 ⑥DC事業で行ったイベント等を、今後も継続していけるような組織体制を検討する。DC実行委員会交付金の精算を進める。</p>
<p>第3四半期</p>	<p>①観光戦略の具体的戦術や推進部会の検討を進めることが出来た。 ②トレーニングパッケージ4事業について、予定通りの進捗。主催団体と連絡調整をし、メディアへの情報発信・参加者の申込み管理等滞りなくできている。今後も主催団体と連携を密に意思疎通図れるよう努める。 ④ましこ悠和館ギャラリーの月平均入場者は目標(300人/月)を上回る入場実績となっている。宿泊施設についてもオープン日が決定した。 ⑥アツタ-DC事業の継続事業「美術館めぐり」について協力体制を継続する。</p>	<p>①観光戦略事業推進にあたり、関係機関との協議を進め、効果的な事業実施に向け取り組む。 ②トレーニングパッケージ実施団体と連携し、誘客につながるPRを推進するとともに、交付金の適正な執行管理に努める。 ③レンタル事業においては道の駅ましこ事業と連携し推進していく。 ④御座所・ギャラリーの情報発信等PRを推進し誘客に繋げる。宿泊事業においては運営事業者との協定書の締結と、開業に向けた準備を協力し進める。 ⑤総合的情報誌の制作については観光戦略事業にて検討していく。 ⑥DC事業で行ったイベント等を、今後も継続していけるような組織体制を検討する。DC実行委員会の精算(解散)を進める。</p>
<p>第4四半期</p>	<p>①観光戦略を推進する上でのDMO等の設立目的を明確にし、実働に向けた組織体制について具体的に検討することが出来た。 ②トレーニングパッケージ4事業について、主催団体と連絡調整をし、メディアへの情報発信・参加者の申込み管理等滞りなくできている。今後も主催団体と連携を密に意思疎通図れるよう努める。2月の1事業についてはコロナウイルス拡散防止のため実施を中止。 ④ましこ悠和館ギャラリーの月平均入場者が目標(300人/月)のところ約200人弱と下回っている。 ⑥アツタ-DC事業の継続事業「美術館めぐり」について協力体制を継続する。</p>	<p>①観光戦略事業推進にあたり、次年度中のDMO等の設立に向けて関係機関との協議を進め、効果的な事業実施に向け取り組む。 ②トレーニングパッケージ実施団体と連携し、誘客につながるPRを推進するとともに、交付金の適正な執行管理に努める。 ③レンタル事業においては道の駅ましこ事業と連携し推進していく。 ④宿泊施設と合わせて、御座所・ギャラリーの情報発信等PRを推進し誘客に繋げるよう努める。次年度に向け、企画展を計画する。 ⑤総合的情報誌の制作については観光戦略事業にて継続検討していく。 ⑥DC実行委員会は今年度にて解散。DC事業で行ったイベント等を、今後も継続していけるような体制を検討する。</p>

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・3委員 改善・見直し・・・1委員 廃止・終了・・・なし	観光戦略事業において、町内関係機関・団体の役割・業務を整理する「事業総括部会」を設置し、事業整理を行っていく。催事のPR強化についても、役割を整理したうえで事業の質向上に努める。
	第2四半期	②意見・提言 DMO設立に向けて町内関係機関の（役割等を）整理すべきである。 各種町内催事のPR強化により観光誘客を図ることで、観光客数、宿泊者数増加に期待したい。	
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・3委員 改善・見直し・・・1委員 廃止・終了・・・なし	観光戦略事業において、町内関係機関・団体の役割・業務を整理する「事業総括部会」を設置し、事業整理を行ってまいります。コロナ禍での事業の在り方を検証し、各関係機関の協力・分担による安全対策を徹底し、安心安全な観光地としてPR出来るよう努めてまいります。加えて、現状に沿う販路開拓（例：Web陶器市）の推進を図ってまいります。
	総括（第4四半期も含む）	②意見・提言 アフターコロナ、ウィズコロナを前提とした戦略の再構築が必要である。	

		課局名	観光商工課		
基本目標	風土に根ざした産業をつくる	政策	観光の基幹産業化		
施策	外国人観光客（インバウンド）の誘客	進捗状況	100%		
KPI	外国人観光客宿泊者数	本年度目標値	1,200人	現状値	1,363人
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月			①国際観光推進協議会「海外旅行博等参加費支援事業」（タイ国際旅行フェア）交付申請 4/24	
	5月	①栃木県国際観光推進協議会との連携強化 ②Wi-Fi環境の要望把握 ③多言語に対応した案内看板・パンフレットの整備 ⑤免税店化・クレジットカード取扱店化への推進		①国際観光推進協議会総会5/16。 ③益子町歴史文化基本構想を活用した観光拠点づくり協議会5/29。 多言語表記看板設置事業（生涯学習課事業）の基礎データ収集のための外国人モニター事業（観光商工課事業）の実施計画について説明。	
	6月				
	7月				
	8月	①栃木県国際観光推進協議会との連携強化 ②Wi-Fi環境の要望把握 ③多言語に対応した案内看板・パンフレットの整備 ④国道121号線などを使った他地域との連携による観光ルートの造成 ⑤免税店化・クレジットカード取扱店化への推進			
	9月			③多言語表記看板設置事業（生涯学習課事業）の基礎データ収集のための外国人モニター事業（観光商工課事業）の実施を11/9-10で決定し、委託事業者と契約を進める。 ④交流都市：山形県米沢市「なせばなる秋まつり」9/28-29に出店し、観光PR・益子焼の販売・道の駅商品の販売を行う。事業実施は益子焼関係団体協議会	
	10月			①国際観光推進協議会10/2。	
	11月	①栃木県国際観光推進協議会との連携強化 ②Wi-Fi環境の要望把握 ③多言語に対応した案内看板・パンフレットの整備 ④国道121号線などを使った他地域との連携による観光ルートの造成 ⑤免税店化・クレジットカード取扱店化への推進		③文化財情報発信推進事業として多言語案内看板・標柱設置事業（生涯学習課事業）の基礎データ収集のための外国人モニター事業（観光商工課事業）を実施。参加者（外国人留学生）14名。11/9-10 ④交流都市：山形県米沢市来町。「ましこ町民まつり」に出店し、観光PR・特産品販売を行う。11/16	
	12月				
	1月			①国際観光推進協議会「海外旅行博等参加費支援事業」（タイ国際旅行フェア）1/16～20実施 実施主体：里山活性化協議会	
	2月	①栃木県国際観光推進協議会との連携強化 ②Wi-Fi環境の要望把握 ③多言語に対応した案内看板・パンフレットの整備 ④国道121号線などを使った他地域との連携による観光ルートの造成 ⑤免税店化・クレジットカード取扱店化への推進			
	3月			①国際観光推進協議会総会（書面決議）承認 3/25 ③文化庁地域文化財総合活用推進事業を活用した文化財情報発信推進事業として多言語対応の案内看板・標柱を設置完了（生涯学習課事業）	

	<p>③担当課の点検・検証</p> <p>②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。</p>	<p>④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点</p>
<p>第1四半期</p>	<p>①栃木県が実施する海外誘客事業（誘客宣伝事業・受入体制整備事業）の情報共有に努め、連携を図る。 ③文化財×観光ルートの立案。多言語表記看板の適正箇所への設置のため、主旨に合ったモニターを実施する。</p>	<p>①海外誘客に繋がる情報の共有に努め、連携出来る事業への積極的参加に努める。 ②H27栃木県事業で整備済。 ③モニターの実施結果を参考にし、外国人観光客の目線に沿った案内板の設置を行う。</p>
<p>第2四半期</p>	<p>①栃木県が実施する海外誘客事業（誘客宣伝事業・受入体制整備事業）の情報共有に努め、連携を図る。 ③文化財×観光ルートの立案。多言語表記看板の適正箇所への設置のため、主旨に合ったモニターを実施する。 ④継続した交流都市での催事出店により、益子町の認知度は安定している。観光ルートの造成についても、他地域との可能性を図る。</p>	<p>①海外誘客に繋がる情報の共有に努め、連携出来る事業への積極的参加に努める。 ②H27栃木県事業で整備済。 ③モニターの実施結果を参考にし、外国人観光客の目線に沿った案内板の設置を行う。 ④広域観光ルートの造成に向けて、交流都市との共同事業の推進に努める。</p>
<p>第3四半期</p>	<p>①栃木県が実施する海外誘客事業（誘客宣伝事業・受入体制整備事業）の情報共有に努め、連携を図る。 ③文化財×観光ルートの立案。多言語表記看板の適正箇所への設置のため、主旨に合ったモニターを実施した。 ④交流都市からの町民まつり出店において、米沢市のPRに努めることができた。</p>	<p>①海外誘客に繋がる情報の共有に努め、連携出来る事業への積極的参加に努める。 ②H27栃木県事業で整備済。 ③モニターの実施結果を参考にし、外国人観光客の目線に沿った案内板の設置を行う。 ④広域観光ルートの造成に向けて、交流都市との共同事業の推進に努める。</p>
<p>第4四半期</p>	<p>①栃木県が実施する海外誘客事業（誘客宣伝事業・受入体制整備事業）の情報共有に努め、連携を図る。 ③外国人モニターツアーの調査分析の結果を参考に、益子地区への多言語表記看板の適正箇所への設置が完了した。 ④交流都市（米沢市）との相互PRに努めることができた。</p>	<p>①海外誘客に繋がる情報の共有に努め、連携出来る事業への積極的参加に努める。 ②H27栃木県事業で整備済。 ③今年度実施した田野地区での外国人モニターツアーの実施調査結果を参考に、次年度の看板設置を計画する。 ④広域観光ルートの造成に向けて、交流都市との共同事業の推進に努める。</p>

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・3委員 改善・見直し・・・1委員 廃止・終了・・・なし	観光戦略事業において、町内関係機関・団体の役割・業務を整理する「事業総括部会」を設置し、事業整理を行っていく。キャッシュレス事業については、事業整理の観点からも商工会との連携で取り組むべきと考える。
	第2四半期	②意見・提言 DMO設立に向けて町内関係機関の（役割等を）整理すべきである。（p.40に同じ） インバウンド誘客のためキャッシュレス事業の継続は不可欠であり、取組強化のうえ継続願いたい。	
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・3委員 改善・見直し・・・1委員 廃止・終了・・・なし	ひきつづきインバウンド誘客のための基盤整備を推進するとともに、コロナ禍での事業の在り方を検証し、各関係機関の協力・分担による安全対策を徹底し、安心安全な観光地としてPR出来るよう努めてまいります。加えて、新たな交流・販路開拓事業の展開を検討してまいります。
	総括（第4四半期も含む）	②意見・提言 アフターコロナ、ウィズコロナを前提とした戦略の再構築が必要である。	